

令和7年度  
事業報告書



社会福祉法人 大野福祉会

# 目 次

はじめに	1
I 総務課 財政運営（令和7年度 決算状況） 防災・防犯対策 看護業務 給食業務	2
II 救護施設 大野荘 事業の状況 利用者状況 個別支援計画 班活動 全体活動 自治会（がんばろう会） 一時入所事業 居宅生活訓練事業	12
III 障害者支援施設 むつみ園 事業の状況 利用者状況 個別支援計画 施設入所支援事業 生活介護事業 短期入所事業 日中一時支援事業 全体活動	23
IV 障害福祉サービス事業所 よもやま 事業の状況 利用者状況 就労継続支援B型事業 全体活動	33
V 共同生活援助事業（グループホーム） 事業の状況 利用者状況 世話人会の開催 地域との交流	39
VI 相談支援事業 指定特定相談支援・指定障害児相談支援 指定一般相談支援 生活困窮者自立相談支援事業	42
VII 地域公益事業 事業の状況 生活困難者総合相談・生活支援事業 緊急一時宿泊事業	45
VIII 地域支援課 派遣研修実績 所内研修（大野荘・むつみ園） 復命報告 各種研究会 行事企画 地域との交流活動 ボランティア 広報誌の発行・ホームページ 教育実習	46
IX 苦情解決報告 救護施設 大野荘 障害者支援施設 むつみ園 障害福祉サービス事業所 よもやま 共同生活援助事業所（グループホーム） 相談支援事業所 ひやりはっと・事故報告 第三者委員の所見 意見箱	57



## はじめに

令和7年度の大野福社会の事業報告書をお届けするにあたり、平素より当法人の運営にご理解とご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

本事業報告書では、事業概要と実績、財務状況などを取りまとめておりますが、詳細については別紙のとおりとなります。各事業所とも感染症による大きなクラスター等の発生には至らず、利用者の生活活動において、日課や行事等一時的に行えないことがあるも、大きく制限をお願いすることはなく実施することができました。また、職員についても、各種研修会などへの参加をはじめとした人材育成にも継続して取り組むことができました。

法人運営については、入所利用者の減少、重度・高齢化による要介護利用者の増加と、それに伴う介護業務内容の増加、職員の人材不足、そして昨今の世界的に不安定な社会情勢による燃料不足をはじめとした物価高騰等が、法人運営に大きな影響を与えています。

「一人ひとりの立場で考え、共に生きる豊かな社会を目指す」法人の基本理念を旨に、これら厳しい社会情勢や事業実績を分析し、今後も法人の透明性を高め説明責任を果たしながら、感染症対策や災害対策などのリスク管理をしっかりと行い、サービスの質の向上を最優先課題としてこれからも職員一同、信頼される法人経営を目指してまいります。

令和8年5月

社会福祉法人 大野福社会

# I 総務課

## 【1】財政運営（令和7年度 決算状況）

運営の透明性を確保するため財務諸表等については、ホームページ上にて詳細を掲載するが、各拠点区分の事業内容と共に前年度の収支比較により決算状況の報告をする。電気料金や原油価格、物価高騰が続いており、前年度に引き続き支出額が増大している。

### ①救護施設 大野荘

(単位：千円)

	R6年度	R7年度
収入	388,122	388,063
支出	379,987	388,388
積立	0	0

(単位：人)

	R6年度	R7年度
延べ利用者数	1,382	1,330
月平均人数	115	111
入院延べ日数	3,457	3,008

### 収 入

・介護職員加算を1名、看護師加算1名の加算認定となった。慢性的に入所者数は下回り、生活保護事業収入の安定には繋がらなかった。居宅生活訓練事業による施設機能強化推進費は6,584千円の収入であった。また、生活困窮者支援事業は5,000千円で大野市と委託契約をして実施した。

・福井県の省エネ設備等支援事業補助金を利用し、体育館の白熱灯をLEDへの入替工事を行い総事業費3,773千円のうち1,715千円の補助金収入があった。

・福井県の救護施設環境整備支援事業にて、外部防犯カメラを更新し、総事業費2,067千円のうち1,033千円の助成金収入があった。

・物価高騰対策支援として大野市より年間967千円、福井県からも同額の年間967千円の給付があった。

・すてっぷのエアコン入替工事、体育館LED工事、外部防犯カメラ更新工事、厨房給湯器、パソコンの一部入替のため、7,150千円の施設整備積立資産を取崩して財源とした。

### 支 出

・電気料金の値上げ、夏場の猛暑や大雪が影響し水道光熱費および燃料費の支出額が膨らんだ。

・利用者の介護度が増し、おむつ等の使用量が年々増え、介護用品費の支出が増大している。

・相談支援会計へ4,049千円繰り入れた。

②相談支援事業所 大野荘

(単位：千円)

(単位：人)

	R 6 年度	R 7 年度
収 入	6,194	7,192
支 出	6,695	7,192
積 立	0	0

延べ利用者数	R 6 年度	R 7 年度
計画相談	154	143
障害児相談	22	19
地域移行相談	0	0

収 入

- ・計画相談に対するサービス利用計画作成費として自立支援給付費収入が2,773千円となり、昨年度とほぼ横ばいであった。
- ・物価高騰対策支援として大野市より年間23,700円、福井県より11,850円の給付があり、相談支援推進事業補助金として大野市より年間320千円の給付があった。

支 出

- ・障害福祉サービス等事業収入だけでは事業運営ができず、不足する経費として、大野荘会計より拠点区分間繰入をして事業運営に充てた。

③障害者支援施設 むつみ園

(単位：千円)

(単位：人)

	R 6 年度	R 7 年度
収 入	150,953	162,627
支 出	145,254	165,715
積 立	0	0

延べ利用者数	R 6 年度	R 7 年度
生活介護	6,461	6,227
施設入所	9,212	8,411
短期入所	159	183
日中一時	179	70

収 入

- ・むつみ園の月平均利用者数は、生活介護23.2名、施設入所23.0名、短期入所4.3名の利用となった障害福祉サービス等事業収入が139千円の微増となった。そのうち、大野市からの委託事業としての日中一時支援事業においては、前年度より143千円減収になった。
- ・設備の入れ替えや環境整備等に施設整備積立資産14,772千円の取崩を行った。
- ・福井県の省エネ設備等支援事業補助金を利用し、厨房内の冷凍冷蔵庫および検食用冷凍庫を入れ替え、総事業費7,260千円のうち1,367千円の補助金収入があった。
- ・物価高騰対策支援として大野市より年間222千円、福井県より228千円の給付があった。

支 出

- ・施設整備では、厨房内のガステーブル、厨房休憩室と宿直室のエアコン、訓練棟のテレビ、大型洗濯機、一部パソコンを入れ替え、玄関ポーチの改修と全館LED工事を行った。設備面では、医務室の電気温水器を入れ替えた。
- ・水道光熱費支出は、電気料金の値上げ、猛暑・大雪等が影響し支出額が膨らんだ。

④障害福祉サービス事業所 よもやま

(単位：千円)

(単位：人)

	R6年度	R7年度	延べ利用者数	R6年度	R7年度
就労支援事業収入	9,162	9,494	就労継続B型	3,155	3,038
就労支援事業支出	8,596	8,738			
収入	28,364	27,994			
支出	31,643	26,265			
積立	0	600			

収入

・就労支援事業収入は、リサイクル・食品加工・販売・下請の4事業で9,494千円（内部取引含む）の事業収入となった。4事業のうち前年比で食品加工事業のみ106千円の減収であったが、他の3事業については前年比で収入増となった。

・障害福祉サービス等事業収入については、ここ数年高齢化もあり利用者数や利用日数が減り、769千円の収入減となった。

・物価高騰対策支援として大野市より年間86千円、福井県からも同額の年間86千円の給付があった。

支出

・正職員の配置を1名減員したことにより、人件費が大幅に減少した。

・利用者数や利用日数が減少し収入が落ち込むなかで、物価高騰のあおりを受け支出額は増大している。

⑤共同生活援助（グループホーム）

(単位：千円)

(単位：人)

	R6年度	R7年度	延べ利用者数	R6年度	R6年度
収入	40,116	40,088	G H	6,596	6,394
支出	39,287	42,469			
積立	0	0			

収入

・物価高騰対策支援として大野市より年間141千円、福井県からも同額の141千円の給付があった。

支出

・ほとんどの支出科目で前年比で増額の決算額となっており、物価高騰のあおりを受けている。

・ひまわりホームの2階廊下と部屋の一部を改修した。

## 〈考 察〉

予算については、各部署からの事業計画・予算案に基づき精査後、理事会での審議を経て執行している。

社会福祉法の改正により、内部留保の額に制限ができ上限を超えた内部留保である社会福祉充実残額は既存事業の充実や新規事業などに再投下されることになり、安心安全な環境の整備を行い、利用者の方へのサービスの向上、業務の効率化・省力化につなげるとともに、法人として積極的に地域貢献事業を実施していく。

建物や設備等が老朽化している事業所もあり、不測の事態に陥る前に、施設整備を計画的に実施していく必要がある。

各事業で定員割れが常態化しており、法人全体で収入減少が顕著であり、将来を見据えた積立もよもやま事業所において僅かに増額できた。長引く物価上昇に増して、電気料金の値上げ、原油価格の高騰が続いており、経営の圧迫に繋がっている。中東情勢の混迷による経済への影響が懸念されるなか、収入面の安定に向け、これまで以上に財務状況を正確に把握し、計画的且つ戦略的なアプローチで財務の健全化を図り、福祉人材の確保・施設機能の活用を促進していく。

## 【2】防災・防犯対策

利用者の安全・安心な生活を重要課題とし災害に備え、防災訓練、防災教育、研修等を実施すると共に、防災設備及び備蓄の点検・補充を行った。

### 《防災対策》

#### (1) 防災訓練の実施状況

年に数回、想定を変えて避難訓練を実施し、訓練終了後には意見や感想を聴取し、災害時や次回の訓練に反映出来るよう職員間で情報共有を図っている。

大野荘	○火災想定：消火、通報及び避難訓練	6月12日
	○地震等災害想定：避難訓練	3月12日
	○福祉避難所開設訓練	10月26日
むつみ園	○火災想定：消火、通報及び避難訓練	6月18日
	○地震等災害想定：避難訓練	3月11日
	○福祉避難所開設訓練	10月26日
よもやま	○火災想定：消火、通報及び避難訓練	9月12日
グループホーム	○水害時避難訓練（洪水・内水）たんぼぼホーム	6月10日
	○火災想定：通報及び避難訓練	
	ひまわりホーム	9月18日
	うぐいすホーム	9月25日
	かささぎホーム	10月10日
	たんぼぼホーム	10月23日

グループホーム	○地震等災害想定：避難訓練	
	ひまわりホーム	3月19日
	うぐいすホーム	3月23日
	かささぎホーム	3月26日
	たんぼぼホーム	3月13日

※総合防災訓練 10月27日

(むつみ園厨房より出火 むつみ園、大野荘避難訓練)

(2) 防災設備等について

- ・各事業所で委託業者による消火器、スプリンクラー、誘導灯及び標識、防火戸、自動火災報知設備等の保守点検（年2回）を実施し、不良箇所は修理・交換等を行った。

(3) 備蓄物品の点検

- ・食糧及び物品備蓄の内容・在庫数・消費期限及び使用期限を点検し、交換や補充を行った。(大野荘・むつみ園)

(4) 研修について

- ・防災（防犯）新任研修5月2日に実施。
- ・救命救急講習会11月21日に実施。

### 【3】看護業務

#### 救護施設 大野荘

(1) 検査・検診の実施状況

項 目	月 日	受診者数	実施機関名	内 容	結 果
春の内科検診1班	6月11日	21	嘱託医	⑤⑥⑦	
春の内科検診往診2・3班 往診班以外	6月18日 6月27日	38 57	嘱託医	⑤⑥⑦	
生活習慣病検診	9月1日	92	県予防医学協会	①～⑧	7名精検
インフルエンザ予防接種 1・2・3班	11月12日、 19日	56	嘱託医	⑤⑥⑦	
インフルエンザ予防接種 班外	11月21日	52	嘱託医	⑤⑥⑦	

\*検査項目：①検尿②血液検査③心電図④胸部XP⑤血圧測定⑥問診⑦聴診⑧身長体重

- ・内科、精神科定期通院は1ヶ月に1回受診
- ・内科嘱託医による内服者月1回往診、精神科嘱託医による対象者月1回往診
- ・血圧測定、体重測定、血糖測定は月1回実施
- ・新型コロナワクチン接種 令和7年11月1、13、21日実施（83名）

(体調不良者、入院者、新規入所者は随時実施)

- ・内服状況 ①内科薬67名 ②精神科薬85名 ③その他(脳外科・皮膚科・眼科・整形外科など)6名

(2) 施設内での保健衛生実施状況

月 日	実施項目	内 容
5月19日	脱水症予防対策	入浴前後に水分補給開始～9月30日
6月26日	害虫駆除	バルサン散布、アースノーマット配布
8月1日	全体保健指導	高齢者の熱中症対策について
10月1日	感染症対策	嘔吐物処理方法演習
10月8日	空調設備の清掃	通気口掃除大掃除・エアコン掃除
11月1日	感染症対策	感染症標準予防ガウンテクニック
11月4日	全体保健指導	感染症予防について、ヒートショック

(3) 年間入院状況

	県立病院	済生会病院	福仁会病院	たけとう病院	尾崎病院	勝山総合病院	その他	合 計
実人数	15	12	53	1	18	27	29	155
延べ日数	166	187	1168	21	348	470	656	3,016

(4) 年間通院状況

	内科	外科・ 整形外科	精神科	歯科	皮膚科	眼科・ 耳鼻科	泌尿器科	その他	合計
実人数	122	48	483	19	51	56	27	59	865
延べ日数	159	54	526	42	67	66	33	70	1,017

※回診 実人数121名 延べ日数1,157日は含まず。

(5) 年間処置数

	傷処置	不眠・ 不穏薬	軟膏	点眼	パウチ	下剤・ 坐薬	解熱・ 鎮痛剤	血糖 測定	その他	合計
実人数	82	105	518	84	81	448	105	27	104	1,548
延べ日数	420	357	3,725	2,216	549	1,743	275	324	157	9,766

※パウチ交換の実数に自己管理者は含まず。

障害者支援施設 むつみ園

(1) 検査・検診の実施状況

項 目	月 日	実人数	実施機関名	検査項目	結 果
内科検診	7月9日	25	嘱託医	⑤⑥⑦	内服変更0名
生活習慣病健診 (歩行困難者対象)	5月20日～ 8月20日	8	嘱託医	①～⑦	精密検査1名

生活習慣病検診 (むつみ園)	9月1日	12	県予防医学協会	①～⑧	精密検査2名
生活習慣病検診 (よもやま)	9月1日	12	県予防医学協会	①～⑧	精密検査2名

- \* 検査項目：①検尿②血液検査③心電図④胸部XP⑤血圧測定⑥問診⑦聴診⑧身長体重
- ・内科、精神科は嘱託医による月1回の往診
  - ・血圧測定、体重測定 月1回実施 ・血糖測定 月1回実施
  - ・インフルエンザ予防注射：11月12日 むつみ園・よもやま実施  
(入院者は入院先で実施)
  - ・内服状況 ①内科薬19名 ②精神科薬 18名 ③その他(皮・整・耳) 5名
  - ・新型コロナワクチン予防接種は11月12日むつみ園・よもやま65歳以上の方が実施  
(体調不良者、入院者は随時実施)
- 但し、むつみ園利用者に関しては保護者から同意が得られない方3名は未接種

## (2) 施設内での保健衛生実施状況

月 日	実施項目	内 容
6月11日	環境整備	バルサン・アースノーマット対応
5月12日	熱中症予防対策	入浴前の水分補給開始
7月24日(むつみ園) 7月16日(よもやま)	全体保健指導	熱中症・歯磨き・転倒について
11月5日(むつみ園) 11月19日(よもやま)	全体保健指導	冬の感染症予防と手洗い
通年	感染症予防対策	手洗い・手指消毒励行・施設内換気・消毒の普及 園内環境整備・必要時マスク着用の普及

- ※毎週木曜日(女子)金曜日(男子)は棟毎に個人用のコップ、水筒の消毒実施。  
※害虫駆除・空調設備の清掃等は一斉作業で報告とする。

## (3) 年間入院状況

病院名	みどりヶ丘病院	県立病院	勝山総合病院	福仁会病院	その他	合 計
実人数	12	15	15	3	3	48
延べ日数	363	363	295	73	48	1,142

- ※病名 コロナ、肺炎、統合失調症、イレウス、骨折、心不全、精巣上体炎など

## (4) 年間通院診療科目

	内科	整形外科	精神科	耳鼻咽喉科	眼科	皮膚科	泌尿器科	脳外科	その他	合計
実人数	61	32	90	20	9	19	9	1	15	256
延べ日数	85	42	102	22	9	21	15	1	24	321

- ※内科・精神科の往診は含まず。

(5) 年間治療処置

	傷処置	軟膏処置	点眼・点耳	摘便下剤坐薬	不穏時不眠時	血糖測定	解熱剤感冒薬	湿布	その他	計
実人数	48	331	78	226	49	36	32	28	280	1,108
延べ人数	80	8,259	1,341	1,000	84	36	84	788	526	12,198

共同生活援助事業（グループホーム）

(1) 検査・検診の実施状況

項目	月日	実人数	実施機関名	検査項目	結果
生活習慣病検診	9月1日	13	予防医学協会	①～⑧	精密検査1名

\*検査項目：①検尿②血液検査③心電図④胸部XPC⑤血圧測定⑥問診⑦聴診⑧身長体重

- ・精神科は嘱託医による月1回の往診
- ・血圧測定、体重測定 月1回実施
- ・血糖測定 月2回実施
- ・インフルエンザ予防注射 11月12日 実施15名
- ・新型コロナワクチン予防接種 11月12日 実施9名（65歳以上）  
（体調不良者、入院者は随時実施）
- ・内服状況 ①内科薬8名 ②精神科薬13名 ③その他（皮・整・耳）13名

(2) 保健衛生実施状況

- ・毎週 水筒の消毒
- ・毎月 世話人会にて感染予防対策、保健指導
- ・通年 手洗い、手指消毒、うがい励行 マスク着用発信  
口腔チェック、ブラッシング指導、トイレ掃除チェック
- ・適宜 忌避剤、アースノーマット設置 空調設備の清掃

(3) 年間入院状況

病院名	済生会病院	大学病院	勝山総合病院	合計
実人数	2	3	3	8
延べ日数	6	24	14	44

病名：狭心症、乳がん、顎骨壊死、大腸ポリープ、てんかん発作、上腕骨骨折など

(4) 年間通院診療科目

	内科	外科整形	精神科	耳鼻咽喉科	眼科	皮膚科	泌尿器科	脳外科	その他	合計
実人数	58	19	104	20	15	11	12	1	20	260
延べ日数	82	20	119	30	19	11	18	2	26	327

※内科・精神科の往診は含まず。

### (5) 年間治療処置

	傷処置	軟膏処置	点眼・点耳	摘便下剤坐薬	不穏時不眠時	血糖測定	解熱剤感冒薬	湿布	その他(爪切等)	合計
実人数	23	32	49	42	2	12	22	88	54	324
延べ人数	98	837	3,498	288	20	24	45	2,236	54	7,100

## 【4】給食業務

### 救護施設 大野荘

物価高が止まらない年であったが利用者にとって食事は楽しみの一つであり、給食関係者は食事への要望に応えられるように話し合いを行った。安心して安全な食事提供を第一とし、衛生管理に努めて話し合いを重ね改善工夫した。体調を崩された時の急な対応に応じられるよう他職種と連携をとり、調理員間の情報共有は欠かすことのないよう重要視した。高齢化による咀嚼・嚥下困難者が増えたことで刻み対応者が過半数を占めるようになり、また、退院時の食事形態の変更も多かった。

#### 1. 栄養摂取量 (一人1日平均)

品目	目標値	摂取量	比率	品目	目標値	摂取量	比率
熱量kcal	1,650	1,771	107%	ビタミンA $\mu$ g	450	671	149%
蛋白質g	50	66.8	134%	ビタミンB1mg	0.9	2.66	296%
カルシウムmg	550	639	116%	ビタミンB2mg	0.9	1.08	120%
鉄分mg	6.0	10.8	180%	ビタミンCmg	80	98	123%
						食塩相当量	8.3g

#### 2. 食糧構成 (一人1日平均)

食品類別	目標値(g)	摂取量(g)	食品類別	目標値(g)	摂取量(g)
穀類	245	276	野菜類	300	346
芋類	70	79	果実類	50	57
魚介類	70	61	海藻類	7	9
肉類	30	44	種実類	1	1
卵類	30	26	油脂類	5	6
乳類	230	222	調味料	25	33
豆類	75	75			

#### 3. 栄養指導

##### 全体栄養指導 (6、7、12月)

熱中症予防について、時期を迎える前に食事から出来る予防を話した。食中毒予防については、手洗いの重要性や嗜好品の保管の仕方の注意点について話した。

食中毒予防については、感染対策委員会からも更に重要である事を、職員にも伝えることが出来た。

#### 4. 事故、ひやり報告

刻み対応者が増え嚥下能力低下もみられるようになり、食形態低下が多かった。調理の際に刻みの大きさに差がなかったか確認をしながら、急な変更も対応した。

適温給食を心掛けて提供する場面で、温度が高く火傷の危険があることがあり、再度提供する際の温度、時間設定を見直すことがあった。

#### 5. 給食行事

季節を感じる食材を取り入れることは勿論、歳時にも特別感を感じられる献立を取り入れた。毎月の特別献立の日は、要望の多い献立を取り入れるようにした。

食事を楽しみの一つと捉える利用者の思いに応えられるよう利用者からの声を大切にしました。意見箱から献立に関する希望要望があった時は出来る範囲内で取り入れ、困難と思われる内容については丁寧に説明した。

### 障害者支援施設 むつみ園

食事提供が調理済み食品に変更してからも利用者の楽しみである給食を目指し、より良くするため委託業者はもとより他職種との連携を密に行い、ミーティングを重ね意見要望を吸い上げて委託先にも改善を求めた。

加齢に伴い体調に変化がみられるようになり、食形態を変更する際は素早く行った。個別対応が必要な時は、医療機関の関係者とも連携し栄養管理を行い、多職種で対応し個別支援を充実させた。

引き続き月に数回は「お楽しみメニュー」を取り入れ、変化のある献立を提供した。

#### 1. 栄養摂取量（一人1日平均）

品目	目標値	摂取量	比率	品目	目標値	摂取量	比率
熱量kcal	1670	1529	92%	ビタミンA $\mu$ g	550	326	59%
蛋白質g	46	45.9	100%	ビタミンB1mg	0.97	0.65	67%
カルシウムmg	570	401	70%	ビタミンB2mg	1.1	0.58	53%
鉄分mg	6.0	4.3	72%	ビタミンCmg	80	37	46%
						食塩相当量	4.9g

#### 2. 栄養指導

##### 全体栄養指導（5、12月）

利用者の特性から拘りの強い方が少しでも快適になるように、パンフレットを用意し時間をかけて支援員の同席のもと行った。

手洗いの重要性を、写真付きパンフレットを見ながら説明し、食中毒予防の大切さを伝えた。高齢の方が増え食事の姿勢に変化が出始めたため、誤嚥予防のために視覚を大切にしてイラスト等の媒体を活用して注意を促した。

## Ⅱ 救護施設 大野荘

### 【1】事業の状況

定員は130名であり、年度末現在の入所状況は一時入所も含め117名であった。内訳は入所7名、退所15名であり、退所が入所を8名も上回っており定員割れが顕著となっている。退所理由は地域移行が6名、介護保険施設等移行が5名、死亡が4名であった。入所については、病院（精神含）からが3名、地域が3名、刑務所からが1名であった。

高齢重度化により身体介護は基より認知症による心身の介護者も増える中、なごみ班を利用する方が全体の約7割となる状況にあり、身体機能の維持をはじめとした健康面に配慮した支援を強化し、その上で他施設・病院への移行促進を図っているところであるが、移行した方は5名に留まっている。

循環型施設の役割としてグループホームやアパート生活等へ地域移行されているが、居宅生活訓練事業では男性3名の利用中1名の方が年度内の地域移行に向け調整してきたが、移行先の居住条件がご本人の意向と合わない等があり、本事業利用期間内での地域移行とはいかなかった。引き続き大野荘に戻り、地域移行に向けた支援は継続中となる。

入所利用者の支援では、今年度は感染症によるクラスター等は発生せず、他県救護施設との交流会は中止となるも、日帰り旅行等の行事や個別支援計画による支援を、ほぼ制限を設けることなく実施することができた。

一時入所事業については、年間12名の方の利用があり、車上生活者、心身の状態から家に戻れない方、家族関係の悪化等の理由により入所に至る方もいた。

### 【2】利用者状況

①実施機関（単位：人）

（令和8年3月31日現在）

県内	福祉事務所or 健康福祉センター(C)	利用者数			県外	福祉事務所or 健康福祉センター(C)	利用者数			
		男	女	計			男	女	計	
福井県	福井 C	1	3	4	岐阜県	美濃市	0	1	1	
	丹南(鯖江) C	3	3	6		郡上市	0	1	1	
	丹南(武生) C	5	0	5		揖斐	1	0	1	
	二州 C	0	3	3						
	若狭 C	0	2	2	小計			1	2	3
	大野市	8	5	13	滋賀県	彦根市	1	1	2	
	勝山市	2	4	6		長浜市	0	1	1	
	越前市	5	2	7	大阪府	枚方市	0	1	1	
	福井市	26	4	30	石川県	七尾市	1	0	1	
	坂井市	11	6	17	小計			2	3	5
	あわら市	1	0	1	県外合計			3	5	8
	鯖江市	2	1	3	総計			71	46	117
	敦賀市	4	5	9						
小浜市	0	3	3							
小計		68	41	109						
県内合計		68	41	109						

②入退所状況（短期利用も含む）（単位：人）

（令和8年3月31日現在）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規利用者	男	1	1	2	2	1	1	1	0	0	1	0	3	13
	女	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	1	2	5
退所者	男	2	1	5	1	0	1	1	1	1	0	1	3	17
	女	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	1	5	9
月末在所者数	男	71	71	70	70	70	71	70	69	68	69	68	71	
	女	49	49	49	49	49	49	48	48	48	48	48	46	
	計	120	120	119	119	119	120	118	117	116	117	116	117	

③年齢別性別状況（単位：人）

（令和8年3月31日現在）

区分\歳	～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75以上	合計	平均年齢
男	0	0	3	6	2	9	10	23	18	71	68.6歳
女	0	0	2	0	1	6	6	8	23	46	73.9歳
計	0	0	5	6	3	15	16	31	41	117	70.7歳
%	0.0	0.0	4.3	5.1	2.6	12.8	13.7	26.5	35.0	100	

④在所期間状況（単位：人）

（令和8年3月31日現在）

区分\年	1年未満	1～3	3～5	5～10	10～15	15～20	20～25	25年以上	合計	平均年数
男	6	6	9	17	13	14	0	6	71	11年10ヶ月
女	3	4	5	8	7	6	3	10	46	17年8ヶ月
小計	9	10	14	25	20	20	3	16	117	14年2ヶ月
%	7.7	8.5	12.0	21.4	17.1	17.1	2.6	13.7	100	

⑤障害の状況（単位：人）

（令和8年3月31日現在）

障害の区分	身体障害	知的障害	精神障害	重複障害				その他	合計
				身体知的	身体精神	知的精神	身体知的精神		
男	2	3	35	3	6	8	1	13	71
女	1	5	16	0	5	5	5	9	46
小計	3	8	51	3	11	13	6	22	117
%	2.6	6.8	43.6	2.6	9.4	11.1	5.1	18.8	100

⑥A D L 状況（単位：人）

（令和8年3月31日現在）

	全部介助	一部介助	自立	計
男	6	39	26	71
女	12	22	12	46
計	18	61	38	117
%	15.4	52.1	32.5	100

## ⑦入所状況

(令和8年3月31日現在)

No.	氏名	性別	入所日	実施機関	入所前
1	A	男	R7.6.1	福井市福祉事務所	アパート
2	B	男	R7.7.1	福井市福祉事務所	病院
3	C	男	R7.8.1	坂井市福祉事務所	アパート
4	D	女	R7.9.1	敦賀市福祉事務所	病院
5	E	男	R7.10.1	あわら市福祉事務所	病院
6	F	女	R7.10.1	彦根市福祉事務所	アパート
7	G	女	R8.3.8	大野市福祉事務所	刑務所

## ⑧退所状況

(令和8年3月31日現在)

No.	氏名	性別	退所日	実施機関	退所後
1	H	男	R7.4.10	大野市福祉事務所	介護施設
2	I	男	R7.4.16	福井健康福祉センター	地域移行
3	J	男	R7.6.15	勝山市福祉事務所	死亡
4	K	男	R7.6.19	丹南(武生)健康福祉センター	介護施設
5	L	男	R7.6.30	福井市福祉事務所	G H
6	M	女	R7.8.31	大野市福祉事務所	G H
7	N	男	R7.10.15	あわら市福祉事務所	介護施設
8	O	女	R7.10.6	大野市福祉事務所	介護施設
9	P	女	R7.10.14	大野市福祉事務所	介護施設
10	Q	男	R7.11.5	美濃市福祉事務所	地域移行
11	R	男	R7.12.12	越前市福祉事務所	死亡
12	S	女	R8.2.22	坂井市福祉事務所	死亡
13	T	女	R8.3.12	大野市福祉事務所	地域移行
14	U	女	R8.3.25	福井市福祉事務所	死亡
15	V	女	R8.3.30	越前市福祉事務所	地域移行

## ⑨面会状況

(令和8年3月31日現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	1	4	5	4	2	2	2	3	3	0	4	4	34

## ⑩外泊状況

(令和8年3月31日現在)

外泊については実施されなかった。

### 【3】個別支援計画

#### (1) 個別支援計画の充実

「救護施設個別支援計画書」Ver.0の作成ガイドに基づいて個別支援計画を立て、支援の充実を図った。又、支援の内容については、ケース記録に必ず記載するように周知徹底した。

#### (2) ケア会議の充実

確実にケア会議を実施するため、月初めには会議予定表を配り、会議当日までに資料を作成するよう呼び掛けた。又、ケア会議には利用者本人の参加も促し、利用者が自らの生活課題や目標設定に直接的に関わり、職員と共に個別支援計画の確認を行った。

#### (3) モニタリング月のケア会議実施状況（月別）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
予定		21	24	22	22	24		26	23	20	20	24	226
実施		21	24	22	21	23		26	23	15	20	20	215
%		100	100	100	95	96		100	100	75	100	83	95%

#### (4) ケア会議の時利用者参画状況

男子棟	女子棟	けやき すてっぷ	こぶし	かえで	合計
5名	2名	1名	2名	4名	14名

#### 〈活動の状況〉

予定通り実施する事が出来ていない。その為、遅滞なく実施し、会議録を速やかに提出するよう呼び掛けた。又、利用者参画の呼び掛けを行うが予定通りに行えておらず、利用者参画の意義を考え計画的に行えば実施できると感じる。次年度は、職員個々が責任を持って実施出来る事を望む。個別支援計画は計画を立てる事が目的ではなく、支援する事が目的である事を忘れてはいけない。誰の計画であるかを認識し、多くの利用者参画を目指してほしい。

### 【4】班活動

#### (1) なごみ班

介護と体力・心身機能の維持を目的として、利用者個々の状況に応じた生活ケア・軽運動・創作活動等の支援を行う。

#### 活動状況（月別）

〈今年度（利用者最大83人）〉

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
回数	19	18	16	15	15	14	20	14	7	13	10	16
延人数	873	816	712	606	641	554	860	526	269	486	379	593

感染症による対応でなごみ班活動が中止となることや、入浴・通院等により職員が不足し、活動が実施出来ないこともあった。

軽運動（歩行訓練・自転車漕ぎなど）では、利用者の心身の状態に応じ残存能力の維持や機能回復に努めた。ホットパックを取り入れながら身体の血行促進や疼痛の緩和も図った。また定期的に行うレクリエーション活動（ゲーム・ミュージックケア・カラオケ・おやつ会など）を通して、様々な障害を持った利用者に対し全員が参加出来るよう工夫しながら実施した。創作活動（塗り絵・ちぎり絵・折り紙など）では、利用者個々の能力に合わせた趣味性のある内容の充実を図り、季節に合わせた展示物の作成を行い、施設内で展示することで利用者に季節感を味わってもらった。また完成した作品の中から大野市の文化祭にも出展した。衛生面での支援やリラクゼーション（爪切り・耳かき・手足の保湿ケア・マッサージ）の提供も行った。

## （２）こでまり班

能力、適性に合った委託作業を提供し、作業賃金は出来高払いとし、労働意欲の向上や責任感を養う支援を行う。

### 活動状況

４月は利用者20名でスタートし、３月末には22名となる。中野化成の墨汁キャップ・角皿・阿部産業については時期によっては作業がなく、作業提供できない日があったが、年間を通して作業活動は、十分に稼働した。九頭竜ワークの作業については年間を通して十分な作業量を確保することができた。

今後の課題として今以上に希望者が増えると作業スペースが足りない状況であることを、どのように解消するか検討する必要がある。

### 月別作業従事者延べ人数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働日数	19	20	19	20	17	17	20	16	15	17	11	16
総数	305	333	296	316	289	316	375	322	253	287	217	315

### ①作業収入

(単位：円)

月	阿部産業	中野化成	九頭竜ワーク	合計
4月	106,210	69,804	26,864	202,878
5月	92,403	56,344	20,225	168,972
6月	90,728	69,600	22,440	182,768
7月	108,924	36,000	29,172	174,096
8月	92,292	46,026	25,806	164,124
9月	95,862	72,000	25,806	193,668
10月	77,634	41,040	30,934	149,608
11月	119,011	52,766	23,944	195,721

12月	105,735	79,682	25,799	211,216
1月	91,852	51,120	18,757	161,729
2月	87,582	19,106	23,720	130,408
3月	111,200	32,224	19,206	162,630
合計	1,179,433	625,712	292,673	2,097,818

### (3) のぞみ班

委託作業の提供と施設内の美化を行い、労働意欲の向上に繋がる支援を行う。

#### 活動状況

利用者16人。作業内容は中野化成からの作業として墨汁キャップを行った。墨汁キャップの作業のない日は、12月頃からかえで寮男子トイレ・男子下トイレに掃除を開始した。

#### ①作業収入

(単位：円)

月	墨汁キャップ	しんちゃん箸	合計
4月	13,920	0	13,920
5月	10,080	0	10,080
6月	16,560	6,150	22,710
7月	17,760	0	17,760
8月	14,400	0	14,400
9月	13,440	0	13,440
10月	14,400	3,690	18,090
11月	11,520	0	11,520
12月	2,400	0	2,400
1月	6,240	0	6,240
2月	6,720	0	6,720
3月	9,600	0	9,600
合計	137,040	9,840	146,880

※しんちゃん箸の販売先 (イトヨの里会館)

#### ②月別作業従事者延べ人数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働日数	19	20	17	20	17	16	19	14	3	15	11	16
総数	206	212	205	259	198	176	218	146	36	162	115	179

### (4) 内勤班

炊事班は男性1名女性1名がシフト制で作業を行ったが、男性利用者の不調が続き入院する事になった為、厨房作業については一旦終了とする。女性利用者も腰痛で休むことも

あったが作業は続けている。

洗濯班は女性3名が所属しているが、主に作業を行うのは2名の方で1名は決められた日には参加しないが、休日等に作業を行っている。どちらの作業班も人員不足の状態、特に洗濯班は高齢化により、後に続く人を探すことも難しいと思われる。

(5) 外勤実習班

外勤班については今年度も対象者がおらず、外勤実習利用の方がいない状況が続いている。

【5】全体活動

(1) サークル活動

○編み物教室

実施日	4/11	5/30	6/27	7/30	8/25	10/30	11/28	12/9	1/22	2/25
参加者	3	3	4	3	3	4	4	3	3	4

講師指導のもと、職員1名が対応して実施した。

○絵手紙教室

実施日	4/25	5/26	6/25	7/18	9/26	10/23	11/21	12/12	3/25
参加者	3	4	4	4	3	3	3	3	2

職員1名が対応して実施した。

○お茶教室

実施日	4/22	5/14	6/9	7/25	8/22	9/16	10/21	11/26	12/25	1/28	2/24	3/23
参加者	33	33	28	30	31	29	34	26	29	41	35	31

講師指導のもと、職員2～3名が対応して実施した。

○生け花

春、年末、年度末に、生け花が好きな利用者数名が参加して花を生け、各棟や玄関などに飾った。

(2) よろず相談 (利用者への何でも相談)

相談日時：毎週水曜日 午後1時30分～

相談受付者：係長

相談延べ人数

(単位：人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男	3	2	1	1	1	1	5	0	3	2	2	0	21
女	3	3	3	4	4	5	1	0	2	2	1	1	29
計	6	5	4	5	5	6	6	0	5	4	3	1	50

相 談 内 容

(単位：件)

相 談 内 容	上半期	下半期	計
話しを聴いて欲しい	24	13	37
回答がほしい	6	1	7
教えてほしい	2	4	6
調査してほしい	0	1	1
改めてほしい	0	2	2
その他	4	5	9
計	36	26	62
相談内容カテゴリー	上半期	下半期	計
対人関係について（同室者・居室替え等）	21	7	28
意見・要望・苦情について	7	5	12
家族について（面会や連絡等）	0	0	0
作業・支援・行事について	0	0	0
金銭(小遣い)について	1	1	2
食事に関する事	0	0	0
地域・施設移行について（将来について）	2	4	6
健康・医療について	3	6	9
買い物について	0	0	0
計	34	23	57

(3) 医療相談

口腔内のトラブル3件、食事形態の見直しの希望が1件あった。

口腔内トラブルについては、ブラッシング、歯磨き指導を行い、歯科通院に繋げている。

食事形態については、病気への理解力が薄いために担当医に指示を仰ぎながら、出来る限り本人の意向に沿うように対応をしている。

今後も、利用者の意向や悩みを傾聴しながら対応していく。

(4) 栄養相談

大野荘では、体力を付けたい、体重の減少を心配している等、毎日の食事で工夫したい相談には本人の状態を確認して行った。

夏場と冬場の食生活で気を付けるための嗜好品も含めての相談の他、自分の食事のカロリー計算をしたいと来られた方にも施設生活でのアドバイスを行った。

食事形態を変えて欲しいと相談があった時は、他職種と確認を取ったが無理であった時には現状の説明を丁寧に行った。

食べ難さを解消したいと食器についての相談もあり、食事制限がある方は体調を崩された時に自分にあっているのか確認されることがあった。

また、米不足を心配されて大野荘の状況を聞きに来られた時は大丈夫であり、安心する

ようお伝えした。

#### (5) リハビリテーション

ケアプランに応じて理学療法士が、対象となった利用者1人につき週に1～2回（PM 13：15～15：30）、心身機能の維持・回復を目的として訓練を実施した。入浴日と重ならないようなるべく男性利用者は火曜日と金曜日、女性利用者は月曜日と木曜日に実施するようにした。感染症に伴う対応等で予定していた日時に実施出来なかったリハビリについては、別日に変更しリハビリを行った。

- ①理学療法では、病院からのPTの個別処方を基に、主に高齢・重度の方を対象とし、残存機能の維持増進を図った。
- ②作業療法では、病院からのOTの個別処方を取り入れ、精神の安定と意欲の向上を図った。

#### 開催日及び参加者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
回数	17	17	13	15	12	18	17	10	11	13	14	18
人数(P T)	79	68	60	57	48	72	63	42	46	48	52	70
人数(O T)	7	6	6	9	4	8	7	3	5	5	5	6

#### (6) 外出支援

平日の午後にバス外出・図書館外出を行い、バス外出利用が困難な方は、各寮で個別に職員付き添いで外出支援を行う。

担当職員が利用者から聞き取りを行い、嗜好品等の買い物の代行にも対応した。

休日の外出時に、熱中症特別警戒アラートが出た場合は、外出中止、又は短時間の農道散歩（30分以内）とした。

#### バス外出・図書館外出参加者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
バス外出	29	30	31	19	32	32	31	29	36	36	33	28
図書館	21	23	23	32	22	18	24	23	25	22	31	24
自転車	24	27	22	24	17	18	16	19	0	0	0	7

#### (7) 一斉作業

##### 実施状況

職員確保が困難な時もあり、定期的なワックスがけを行う事が出来なかった為、計画的に一斉作業を実施する事が出来なかった。

(実施日及び実施内容)

実施日	内 容
5/27 (火)	食堂汚れ落とし
6/6 (金)	物品室前から洗濯室まで廊下汚れ落とし

6/26 (木)	害虫駆除
7/28 (月)	事務所から食堂までの廊下の汚れ落とし
10/8 (水)	通風孔掃除、男子上、女子上、けやき寮畳上げ大掃除
11/10 (水) ~27 (木)	雪囲い
11/19 (水)	食堂汚れ落とし
12/23 (火) ~25 (木)	年末大掃除 26日は粗大ごみをゴミステーションへ
3月後半~末まで	雪囲い外し

### (8) 全体集会

利用者全員を対象として毎月初め体育館にて、誕生者の紹介、尾崎病院とたけとう病院の往診日の連絡、栄養指導日、特別献立日、月の行事予定等を連絡し、看護師、栄養士から施設生活の中で、気を付けて欲しい事等の連絡を行った。

### 【6】自治会（がんばろう会）

自治会活動は主に喫茶運営を週3回（月、木、土）実施した。8月には喫茶まつりを開催し、普段とは違うメニューと季節感ある雰囲気の中での喫茶レクリエーションを行った。また、5月と2月にカラオケ大会、11月に紅葉を見にドライブをし、道の駅を散策したり、正月にはDVD鑑賞会も実施することが出来た。

### 【7】一時入所事業

受け入れ実績

利用状況（単位：人）

（令和8年3月31日現在）

新規利用者	性別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	男	1	1	1	1	0	1	0	0	0	1	0	3	9
	女	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	3
	計	1	1	1	1	0	2	0	0	0	1	1	4	12

	氏名	性別	期 間	実施機関	利用理由	利用後の行先
1	A	男性	4月11日～5月9日	越前市福祉事務所	車上生活	地域移行
2	B	男性	5月15日～5月31日	福井市福祉事務所	借家退去	入所
3	C	男性	6月17日～6月30日	福井市福祉事務所	家族関係	入所
4	D	男性	7月17日～7月31日	坂井市福祉事務所	借家退去	入所
5	E	男性	9月12日～9月30日	あわら市福祉事務所	車上生活	入所
6	F	女性	9月22日～9月30日	彦根市福祉事務所	借家退去	入所
7	G	男性	1月27日～2月15日	小浜市福祉事務所	車上生活	入所
8	H	女性	2月6日～3月7日	大野市福祉事務所	出所後	アパート
9	I	男性	3月17日～3月31日	福井市福祉事務所	生活困難	入所

10	J	男性	3月25日～3月31日	丹南健康福祉センター鯖江	家族関係	入所
11	K	男性	3月27日～3月31日	丹南健康福祉センター武生	自宅損壊	入所
12	L	女性	3月30日～3月31日	越前市福祉事務所	知人宅退去	入所

## 【8】居宅生活訓練事業

### (1) 利用者状況

#### ①年齢構成（延べ人数）

区分	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～69歳	70歳～79歳	合計
男性	0	2	1	0	3

#### ②障害の状況（延べ人数）

障害の区分	精神障害	身体障害	知的障害	障害なし	合計
男性	1 (知的重複)	0	1 (精神重複)	2	3

### (2) 専門員ミーティング

毎月1回専門員のミーティングを行い、利用者の状況や生活面での課題や環境整備について話し合った。普段の様子など職員の目が行き届きにくい所の情報を専門員から報告してもらうことで、情報共有する事が出来るようにし、支援の向上に努めた。また虐待防止の研修を行う場としても利用し、支援の質向上に努めた。

### (3) 経過

今年度も男性利用者3人が事業を利用した。令和8年3月に利用が終了する予定のT氏の地域移行を支援した。本人の希望である地元に戻る事を目標として、坂井市内での物件探しを行った。物件が見つかった段階で、緊急連絡先を家族に依頼したところ、家族の思いと本人の思いがすれ違い、結果的に利用期限までに地域移行を完了する事が出来ず、3月31日に大野荘に戻り地域移行を目指す事となった。

### Ⅲ 障害者支援施設 むつみ園

#### 【1】事業の状況

生活介護は現員26名（男15名・女11名）、施設入所支援は現員25名（男14名・女11名）の方が利用している。高齢で入院をした方が他県の療養型病院に転院し、施設生活が難しく長期入院になっていた方が、福祉サービスの契約を終了した。また、GHより生活介護を利用されていた方が、施設移行され契約を終了した。昭和35年の法人設立当初から施設利用されている方を含め、25年以上在籍されている利用者が多く、平均年齢が68.6歳と県内の障害者支援施設の中では高齢化が進んでいる。障害支援区分は区分5と区分6の方が75%を占め、車椅子や歩行器が必要な方が多く、職員が2名で介護支援にあたる場面やマンツーマンでの支援が必要な場面が増えてきた。

生活介護では、社会への自立が極めて困難な重度者への支援と身体機能が低下している高齢者への支援の両方が求められる。施設内でのリハビリの充実や重度者については個別に手順書を作成し、職員間で統一した支援が行えるようにした。また、個別支援では少人数での買い物外出や外食・旅行・個別での外出など、一人ひとりの要望に沿った意思決定支援や園内で取り組める活動を提供した。地域連携推進会議やクリスマス会など、地域の方や保護者の方と交流する機会が増え、施設への理解を深め利用者の方と親睦を図ることができた。

短期入所事業については、6名（男1名・女5名）の方が年間を通して定期的に利用している。その他に1名の方の緊急受け入れを行い、今後も家族のレスパイトに応えられるように体制を整えていきたい。

日中一時支援事業については、放課後の利用と長期休暇の利用を合わせて3名の方が利用した。

#### 【2】利用者状況

①市町別利用者（単位：人）

（令和8年3月31日現在）

出身市町		利用者数			出身市町		利用者数			
		男	女	計			男	女	計	
県内 嶺北	福井市	2	2	4	県内 嶺南	敦賀市	0	1	1	
	大野市	6	4	10		おおい町	0	1	1	
	勝山市	2	0	2	県内合計			14	9	23
	鯖江市	2	0	2	岐阜県	郡上市	0	1	1	
	越前市	1	1	2	石川県	七尾市	0	1	2	
	永平寺町	1	0	1	県外合計			0	2	2
					総数			14	11	25

②年齢構成（単位：人）

（令和8年3月31日現在）

区分	～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75以上	合計	平均年齢
男	1	1	0	1	2	2	1	3	3	14	63.7歳
女	0	0	0	0	1	2	0	2	6	11	74.9歳
計	1	1	0	1	3	4	1	5	9	25	68.6歳
%	4.0	4.0	0	4.0	12.0	16.0	4.0	20.0	36.0	100	

（備考）最年少36歳、最高齢88歳

③障害の状況（単位：人）

（令和8年3月31日現在）

障害の区分	身体障害	知的障害	精神障害	重複障害				その他	障害なし	合計
				身体知的	身体精神	知的精神	身体知的精神			
男	0	11	2	0	0	1	0	0	0	14
女	0	6	3	2	0	0	0	0	0	11
小計	0	17	5	2	0	1	0	0	0	25
%	0	68.0	20.0	8.0	0	4.0	0	0	0	100

④在籍年数（単位：人）

（令和8年3月31日現在）

区分	1年未満	1～2	3～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25年以上	計	平均年数
男	0	0	2	2	2	5	0	3	16	18年7ヶ月
女	0	1	0	1	2	2	0	5	11	26年6ヶ月
計	0	1	2	3	4	7	0	8	27	22年2ヶ月
%	0.0	4.0	8.0	12.0	16.0	28.0	0	32.0	100	

（備考）最長在籍者（昭和52年4月入所）48年11ヶ月

### 【3】個別支援計画

#### （1）個別支援計画の徹底と充実

本人の希望・要望を踏まえ、その人らしくどう生きていくかという思いを支援するプランやケアの大切さを知り、生活行為や生活意欲を引き出すような支援計画の作成を継続して行った。個別支援計画の支援内容や日常における支援の変更について、その都度『対応表』を作成し回覧することを継続し、支援員全員が情報を共有できるようにしている。

高齢化により介護を必要とする利用者が増え、健康面に配慮した支援を取り入れた。また入院する方が増え、入院面会の支援も多くなった。また、利用者の楽しみでもある外出の機会を増やすため、必要に応じて感染防止対策を行いながら個別外出を実施した。

個別懇談会は、対面・ZOOMでも実施できるよう案内を発送したが、対面での個別懇談会は昨年度よりも減った。対面での個別懇談会は、個別支援計画について直接説明が出来ることやご家族からの要望なども聞ける機会であること、また、利用者にとってもご家族と会う機会となる。そのため、今後も案内の発送を継続するが、高齢・遠方の

ご家族もおられるため配慮や工夫が必要になると思われる。

#### 個別懇談会の状況

(単位：件数)

個別懇談会	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
保護者の出席 リモート含む	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1
郵送	4	5	7	4	5	2	4	5	5	5	5	2
計	4	5	7	4	6	3	4	5	5	5	6	3

成年後見制度利用者数	補助人	保佐人	後見人
計	1	0	1

#### (2) ケア会議の充実

サービス等利用計画との整合性が図れるよう、サービス管理責任者がケア会議の年間計画を立てて開催した。

急な業務の変更などでケア会議の開催が出来ず、後日、ケース担当者・各寮リーダー・強度行動障害支援担当者・サービス管理責任者で開催することもあったが、各寮支援員の意見も反映されるよう、昨年と同じく出席できない支援員には意見を提出してもらった。

利用者は、体調不良や欠席の意思を示した方を除いてケア会議に出席してもらい、会議の中でも利用者自身が思いを自ら話せるようサポートしながら、また、会議中の本人を感じ様子を観察しながら個別支援計画の確認を行った。

#### 【4】施設入所支援事業

入所利用者に対して、排泄・食事などの介護や生活に関する相談など、日常生活における居住支援を実施した。

定員30名のところ年度当初は27名だったが、令和7年8月に男性（84歳）が他県の病院に転院し、11月に男性（70歳）が長期入院のためサービスを終了して年度末には25名となった。

高齢化が著しく、転倒事故が増えている。新型コロナウイルス流行当時の行動制限による歩行頻度減少の影響からの機能低下も一因と思われ、散歩に出かける機会を増やし、環境を整え転倒防止に努めている。また、転倒の危険性を考慮してベッド下にマットレスや離床センサーを使用している利用者、クッションパンツを使用している利用者もいる。車いすや歩行器を使用する利用者も多く、車いす同士や他利用者と接触するなどの危険がないよう配慮が必要となっている。

行動障害の方への支援では、統一した支援及び本人に合った適切な支援の提供のため、強度行動障害支援ミーティングにて検討し、より利用者の特性に合った支援手順書を作成し支援した。支援手順書の見直しは、3ヵ月に1回、或いは必要に応じて支援ミーティングを開催し、精神状態等の変化に合わせ、利用者が落ち着いて過ごせるよう支援変更した。変更点については職員間で周知できるよう朝礼等で随時、説明した。

今年度も感染対策は継続しつつ、スポーツ大会への参加、バスドライブ・観光バスでの日帰り旅行・公共交通機関を利用した一泊旅行・クリスマス会も実施した。面会や外出等

も高齢者や重度者に配慮し、感染対策を講じながら実施した。施設内の感染対策もかなり緩和し、創作活動や自治会行事等は男女一緒に行っているが、感染リスクを考慮しミュージックケアやレクリエーション等の活動は、ほぼ男女で分けて行い、食事は寮ごとのグループに分けての実施を継続した。その結果、施設内での新型コロナ感染は最小限に抑えることができた。また他の感染症にかかる方はいなかった。

## 【5】生活介護事業

### (1) 入浴の支援

同性介助を基本とし週3回実施した。

《男性》月水金 《女性》火木金

個々に応じて、部分介助や全介助で入浴した。身体的に浴槽に浸かれない方には足浴を実施したり、浴槽に浸かる時に椅子を使用するなど、それぞれの利用者に応じた対応をした。また、身体状況や高齢であることから週3回の入浴が難しく、かつ十分な見守りが必要な利用者に関しては、心身の状況に応じた支援や介助が必要となっている。そのような利用者については、看護師と連携し体調や健康面に配慮して入浴を行った。安全で快適な入浴を目指して作成した入浴支援の一覧表も利用者の状態や事故対策により更新した。今年度も浴室での事故が数件あり、対応策を講じた。入浴時の職員の連携の在り方や介護技術面での課題が残った。

### (2) 食事の支援

食事介助は、年齢や障害を考慮した上で、個々に合った自助食器の使用、咀嚼・嚥下困難者に対しては荒・中・極の刻み食・ムース食を提供した。また、むせやすく誤嚥性肺炎の危険性がある利用者には止むを得ずトロミ剤を使用した。トロミ剤使用時には味が混ざらないよう配慮はもちろん、ダマにならないよう均一に混ざるよう気をつけて提供した。

咀嚼不良・食塊形成不全・送り込み不良・嚥下反射遅延には食事の所要時間、量、形態、環境、本人の意向、支援方法を検討し、職員間での情報共有、支援の統一を図り、嚥下状況を見ながら支援した。食事形態の変更に伴い、利用者からの苦情（食事の量・味・食べられない食事への対応困難等）があり、個別対応や個別支援で少しでも希望に沿うよう対応している。栄養面での課題もあり、栄養士による栄養指導や個別での栄養相談を実施している。定期的にイフスコと会議を持ち、利用者の希望や要望を伝え改善できるよう努めている。

### (3) 排泄の支援

排泄介助は、必ず見守りができ、危険時にすぐに対応できることを基本とし、出来る限りトイレで排泄ができるように支援している。ポータブルトイレ使用時の転倒事故が数件あり、事故防止のため居室の環境を整えた。

居室でポータブルトイレを使用する場合であっても、必ずカーテンを使用するなど、プライバシーへの配慮を怠ることなく、清潔で快適な環境であることも常に意識し介助にあたった。

	男	女	計
ポータブルトイレの使用者	2	5	7
夜間の紙オムツ・紙パンツ等の使用者	1	0	1
昼・夜紙オムツ・紙パンツ等の使用者	5	4	9
定時排泄誘導介助・声かけ介助者	3	4	7

\* 導尿カテーテル（尿パック）使用者 4名（男性2名、女性2名）

#### （４）口腔ケア

昼食後に歯磨き支援を実施した。利用者が自分で磨き難い箇所は職員が仕上げ磨きを行った。歯磨きが苦手な利用者には本人に合う歯磨き粉を使用したり、口腔スプレートの使用や、うがいで咽る方には口腔シートを用い衛生保持に努めた。また適時、看護師が歯石や歯茎の状態を確認したり、歯石チェッカーを用いて磨きにくい部分を利用者と確認した。必要時には歯科医師との連携を図った。

#### （５）日中活動

個別支援は、朝礼・体操の後、1人でも多く個別支援にあたるよう努めた。

日中活動は、それぞれの担当者が、計画的に準備・活動するようにした。

- ①歩行（散歩）…季節や天候に応じて施設内外の散歩や歩行を行った。歩行に不安がある利用者は敷地内で日光浴を行い、園内歩行を行った。また利用者の心身の状態に合わせた活動を行った。
- ②外出支援…感染症対策を徹底しながら少人数での買い物外出やドライブ外出を計画に基づき実施した。また、個々のニーズに合わせ個別外出も実施した。
- ③理美容…男性は4名の理容師に来園して頂き毎月実施した。1名の利用者は自宅への外出時に馴染みの店を利用した。  
女性には年6回、大野市の美容組合の美容師に来園して頂き実施した。2名の利用者は個別支援で定期的に市内の美容室を利用した。
- ④創作活動…月2回以上を日安に季節の壁飾り作りや塗り絵、書道などを支援し、希望される方には個別支援の時間も活用した。その他、正月用のフラワーアレンジメントやマット編み等も支援した。制作した作品は市の文化祭・きらりアート展・アールブリュット展等で展示した。
- ⑤レクリエーション…年度当初は男女に分かれて実施していたが8月からは男女合同で実施した。参加者全員が楽しめるよう配慮しながら、空き缶積みゲーム、ボーリング、魚釣り、輪投げなどの軽運動やiPadを活用した体操などを取り入れた。
- ⑥ミュージックケア…月に1～2回実施した。年度当初は男女別で行っていたが8月より男女合同で実施する。音楽に合わせて体を無理なく動かしたり、鈴や鳴子など簡単に楽しめる楽器を使って楽曲の世界を味わった。また情緒の安定や集団活動への参加促進を図り、リラクゼーション効果を上げる音楽療法を行った。
- ⑦カラオケ…土曜日の午前中に、4つのグループに分け男女別で少人数で実施した。各自が好きな曲や歌いたい曲を選曲し楽しんでいる。歌う事が苦手な利用者は他利用者が歌っているのを聞いたりして過ごしている。感染対策としてマスクの着用と換気、消毒を徹底した。

○活動の実施状況

月	① 歩行	② 外出支援	③ 理美容	④ 創作活動	⑤ レクリエーション	⑥ ミュージックケア	⑦ カラオケ	⑧ リハビリテーション
4月	5	8 個別外出(3)	2	1	2	2	4	2
5月	1	10 個別外出(2)	1	3	2	2	4	3
6月		5 個別外出(2)	1	5	2	1		2
7月		12 個別外出(1)	1	6	2	2	4	3
8月		6 個別外出(2)	2	3	3	3	4	3
9月	2	9 個別外出(3)	1	4	2	2	4	3
10月	7	10	2	5	2	2	4	3
11月	2	10 個別外出(1)	1	3	2	1	5	2
12月	1	9	2	2	3	1	4	3
1月		8 個別外出(2)	1	3	3	2	4	3
2月		9 個別外出(1)	2	2	2	1	4	3
3月	4	11 個別外出(2)	1	2	2	2	3	3
合計	22回	126回	17回	39回	27回	21回	44回	33回

【6】短期入所事業

利用状況（令和7年4月～令和8年3月）

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
利用人数	3	5	4	4	4	3	4	7	3	5	3	6
利用日数	13	16	8	14	13	15	17	29	11	15	13	19

男性1名、女性6名を受け入れた。毎週定期的な利用により家庭を離れ自立した生活への支援、週末の利用による家族のレスパイト、家族の都合による突発的な利用など、個々の状況や要望に応じ、体制を整えながら受入れを行ってきた。

10月から11月には緊急の受け入れとして女性1名を、約2週間受け入れた。

【7】日中一時支援事業

利用状況（令和7年4月～令和8年3月）

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
利用人数	2	1	1	2	1	1	1	1	2	2	1	2
利用日数	7	7	8	8	8	8	8	5	8	7	7	7

放課後に奥越特別支援学校中学部の女子生徒1名、長期休暇中は、奥越特別支援学校中学部の男子生徒1名、その他に男性の方1名を受け入れ、今年度は計3名の受入れを行い、利用される方の特性に合わせて支援した。

ご家族（地域）からのニーズはあり、支援員の配置が確保できれば今後も受け入れを行っていく。

## 【8】全体活動

### （1）生活相談

意見を聞く機会として①朝礼②寮ごとの活動時やミーティング時③自治会活動時における話し合い④その場で言えない利用者は希望に応じて個別に対応した。今年度は係長・課長の相談日(なんでも相談)を設け、意見や相談ごとを聞くようにした。聞いた意見などは、各寮ミーティングや支援会議で検討し、行事企画や個別支援計画に反映できるよう心掛けた。

### （2）自治会活動（うぐいす会）

年度当初に総会を開催し、「自らの手で、より快適で潤いある生活の実現を目指す」を目的に自治会活動を支援した。

#### （自治会行事）

実施日	活動内容	正会員（利用者数）	準会員（職員数）
4月24日	むつみ園 自治会総会	会員21名	9
4月24日	よもやま 自治会総会	会員10名	4
5月8日	端午の節句	会員40名	18
7月15日	七夕	会員38名	19
9月16日	敬老会	会員36名	19
10月7日	おやつ会	会員37名	9
11月14日	希望外出（カラオケ）	むつみ園会員2名	2
11月14日	希望外出（よもやま えびすや）	よもやま会員14名	5
11月14日	希望外出（テイクアウト 三好野）	むつみ園会員3名	0
11月19日	希望外出（マシェリ）	むつみ園会員3名	3
11月20日	希望外出（8番らーめん）	むつみ園会員3名	3
11月26日	希望外出（ひろの）	むつみ園会員3名	4
11月28日	希望外出（はま寿司）	むつみ園会員4名	3
11月～3月	希望外出（テイクアウト スイーツ）	むつみ園会員7名	0

12月23日	クリスマス会	会員40名	20
2月10日	節分	会員38名	20
3月10日	ひなまつり	会員38名	17

※自治会喫茶時のおやつは自治会員の希望を取り入れ購入した。

1月1日、2日は、自治会よりおやつを提供した。

自治会集会 自治会役員会 施設管理者との懇談会

実施日	議題	正会員 (利用者数)	準会員 (職員数)
4月27日(役員会)	端午の節句について おやつ作りについて	6	2
5月8日(集会)	5月の予定 自治会喫茶について 意見箱の確認、意見について	19	7
6月24日(集会)	7月の予定について きらりアート展について 意見箱の確認、意見について おやつ会について	21	6
7月7日(役員会)	七夕集会について おやつ会の時期について	4	2
8月7日(集会)	8月の予定 意見箱の確認 敬老会について	22	7
8月30日(役員会)	敬老会について おやつ会について	5	2
9月2日(集会)	9月の予定 意見箱の確認 希望外出について	20	6
10月7日(集会)	10月の予定 意見箱の確認 希望外出について おやつ会について	20	6
11月2日(集会)	11月の予定 希望外出について 施設長との懇談について 自治会喫茶について アールブリュッド展について 意見箱の確認	21	4
11月23日(役員会)	クリスマス会について 施設長との懇談について 正月のおやつ、おやつ代について	6	2

12月1日(集会)	12月の予定 意見箱の確認 服装について 買物について	23	7
12月23日(懇談会)	施設長との懇談 施設への希望や、やりたい事	5	3
1月7日(集会)	1月の予定 意見箱の確認 アールブリュット展について 自治会喫茶について	21	8
1月26日(役員会)	節分について	5	2
2月3日(集会)	2月の予定 来年度の旅行について 意見箱の確認 カラオケの曲の追加について	19	5
2月27日(役員会)	ひなまつりについて	5	1
3月4日(集会)	3月の予定 意見箱の確認 シーツ交換について	20	3

### (3) 外出支援

#### ①自由外出支援

- ・個人で買い物や理美容を目的とした外出に出る方はおらず、職員付き添いでの外出を実施した。
- ・個別支援で農道など園周辺の散歩に出る方が数名（男性）おり、夏季は熱中症対策の為、クーリンググッズや飲み物を準備した。冬季は園内を歩行してもらった。

#### ②要支援外出

- ・個別支援計画に基づいた個別外出を実施した。  
(映画鑑賞、ドライブ、喫茶、外食)
- ・毎月、買い物外出計画を立てて人数や利用者の体力等、考慮しながら外出した。買い物に行けない利用者には、欲しい物を聞き取り職員が買い物代行を実施した。感染症が流行した時には買い物代行のみ実施した。
- ・買い物外出が困難な車椅子利用者3名が、7/2・11/6・3/5に大野福社会体育館で行われた出張販売会に参加し、衣類等希望の物を購入できるよう支援した。

### (4) 一斉作業

#### ①実施日及び実施内容

実施日	内 容
4/7 (月)	外窓掃除、居室エアコンフィルター洗浄、車いす点検
5/9 (金)	床洗浄（食堂横洗面所・男子棟・女子棟洗面所）、掃除（本館トイレ・あかね寮男子トイレ）、すだれ設置
5/19 (月)	カーテン洗濯（男子トイレ・女子トイレ・浴室）、各居室掃除

6/2 (月)	大掃除 (短期部屋ワックスがけ、車いす点検、エアコンフィルター洗淨 (各居室・支援員室・食堂・あかね廊下・浴室・多目的室)、吹き出し口掃除)
6/18 (水)	外側溝掃除
9/22 (月)	外窓ガラス拭き、居室エアコンフィルター掃除、あかね男子トイレ掃除
10/1 (水)	ポリッシャーかけ (洗面所 (男女)・スロープ)、掃除 (男子トイレ・あかね男子トイレ・女子トイレ・各居室・廊下)
10/29 (水)	通風口掃除、あかね男子トイレ掃除
11/26 (水)	掃除 (男子棟・女子棟・あかね男子トイレ・多目的室)
12/11.15	大掃除 (居室窓ふき、トイレのカーテン洗濯、各トイレ掃除、短期部屋、車いすメンテナンス)
2/25 (水)	掃除 (居室・支援員室・浴室洗濯場・本館トイレ・あかね男子トイレ)
3/9 (月)	雪囲い外し、掃除 (本館トイレ・あかね男子トイレ)、女子6号室整理

業務委託作業 (メンテナンス中村)

7/8 (火)	管理棟・食堂ワックスがけ
10/23 (木)	訓練棟ワックスがけ
11/27 (木)	男子棟共用通路ワックスがけ+食堂ワックスがけ
2/12 (木)	女子棟共用通路ワックスがけ
3/25 (水)	食堂ワックスがけ

※毎月浴室掃除実施※洗面所、洗濯場掃除適時

※寝具干し及び布団乾燥機による寝具乾燥

※居室エアコン、扇風機掃除や年末大掃除については、適時行った。

※乾燥機ダクトフィルター掃除適時

※月に1回車椅子点検

## Ⅳ 障害福祉サービス事業所 よもやま

### 【1】事業の状況

4月に新規利用者を1名受入れたが、利用者の50%以上が60歳を超え、2名の方が他の事業へ移行した。高齢化と共に通院や入院等で利用日数が減少している。

就労事業については、リサイクル事業・販売事業・下請事業が前年度を上回る収益をあげることができた。食品加工事業は、梅干や甘栗の製造を見直し、ポン菓子とポンせんべいの製造を中心にを行い販売したため食品加工全体の収入は減少した。

工賃については、収益が増えたこともあり月額平均30,235円を配分することができた。

平成20年から始めた事業であり、18年が経過し利用者も高齢になり作業種の見直しや、事業形態の検討が必要になっている。

### 【2】利用者状況

①出身市町（単位：人）（令和8年3月31日現在）

出身市町		男	女	合計
福井県	坂井市	1	0	1
	福井市	4	1	5
	敦賀市	1	0	1
	大野市	4	0	4
	勝山市	0	2	2
	永平寺町	0	1	1
合計		10	4	14

②年齢構成（単位：人）

（令和8年3月31日現在）

	19歳以下	20～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65～69	70歳以上	合計	平均年齢
男	1	1	0	1	2	1	1	3	10	56.2
女	0	0	0	0	1	1	2	0	4	63.0
計	1	1	0	1	3	2	3	3	14	58.1
%	7.2	7.2	0	7.2	21.4	14.2	21.4	21.4	100	

③新規利用・利用終了状況（単位：人）（令和8年3月31日現在）

令和7年度	
新規利用	1
利用終了	2

## ④障害の状況（単位：人）

（令和8年3月31日現在）

障害の区分	身体障害	知的障害	精神障害	重複障害				その他 病弱者 生活障害	障害なし	合計
				身体的	身体精神	知的精神	身体的精神			
男	0	7	2	0	0	1	0	0	0	10
女	0	2	2	0	0	0	0	0	0	4
小計	0	9	4	0	0	1	0	0	0	14
%	0	64.3	28.6	0	0	7.1	0	0	0	100

## 【3】就労継続支援B型事業

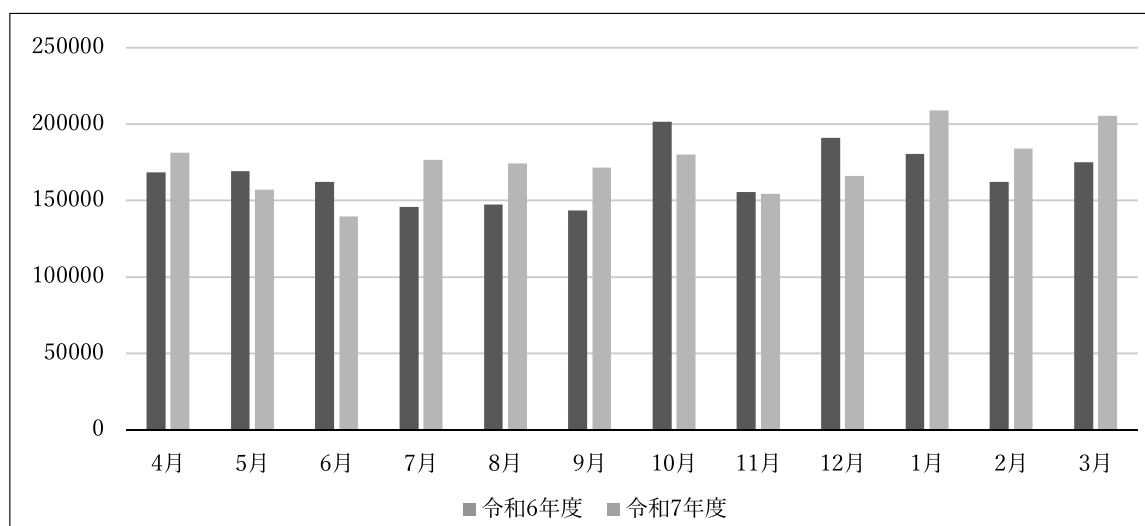
全体の収入額

(1) リサイクル作業 [収益 2,100,390円、前年度対比 97,810円の増]

今年度は、アルミ缶（現在単価200円）8,710kg、スチール缶（現在単価26円）9,610kg、ペットボトル（現在単価10円）25,827kgを回収した。

（単位：円）

(リサイクル作業収益比較表)



(2) 食品加工 [収益 1,992,879円、前年度対比 103,565円の減]

①ポン菓子 [収益 1,829,939円、前年度対比 115,995円の増]

福井県セルフ・かじ惣・杉本清味堂・結楽座・いとよの里・かどの商店への納品と委託販売を行っている。

②甘栗 [収益 112,140円、前年度対比 142,860円の減]

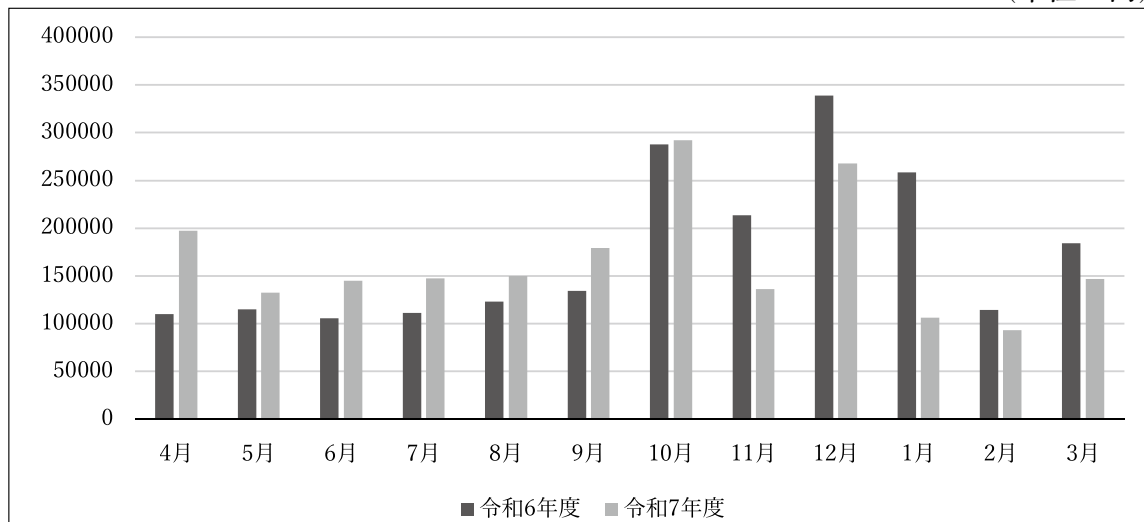
材料費の高騰を受け、残っている材料を使用し甘栗販売を実施した。そのため実演販売は実施できなかった。

③梅干 [収益 50,800円、前年度対比 76,700円の減]

梅干の製造はせず、販売のみ行う。

(食品加工収益比較表)

(単位：円)



(3) 下請け [収益 1,883,605円、前年度対比 224,974円の増]

① プラスチック関係 [収益 1,438,020円、前年度対比 265,514円の増]

内訳：三興プラテック（お茶内職）

酒井プラスチック（バリ取りと検品）

中野化成（プラスチック組み立て、検品、小皿のシール貼り・梱包、湯のみ拭き）

本間金型製作所（お茶キャップの袋詰め・検品）

② ニチコン [収益 8,250円、前年度対比 98,725円の減]

アルミ電解コンデンサ外観不良検査 5月以降作業依頼がない。

③ その他 [収益 437,335円、前年度対比 58,185円の増]

大野市役所からの依頼で公共機関の清掃活動、白布などのクリーニング

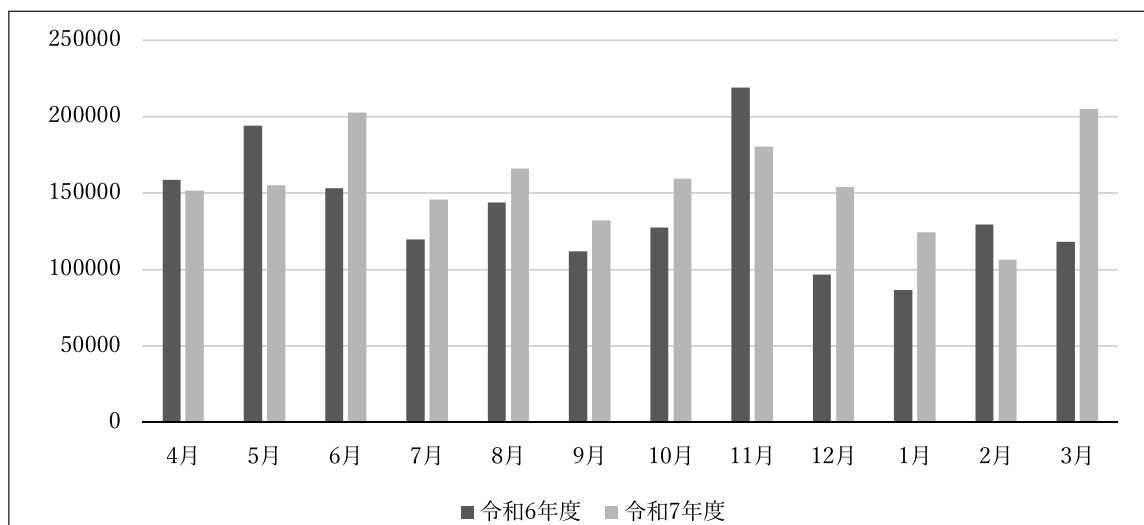
シール貼り（封筒等）、薪の運搬など

個人からの依頼で除草や伐採作業。

法人内の施設での除草、清掃活動。

(下請け収益比較表)

(単位：円)



(4) 販売 [収益 3,532,612円、前年度対比 114,558円の増]

①自動販売機 [売上1,904,040円 前年度対比 77,980円の減]

両施設（大野荘・むつみ園）の自動販売機の補充と商品発注を行った。

②パン販売 [売上 530,992円、 前年度対比 61,598円の増]

大野市役所 月2回（第2・第4木曜日）

大野福社会 月2～3回（第1・第3・第5木曜日）

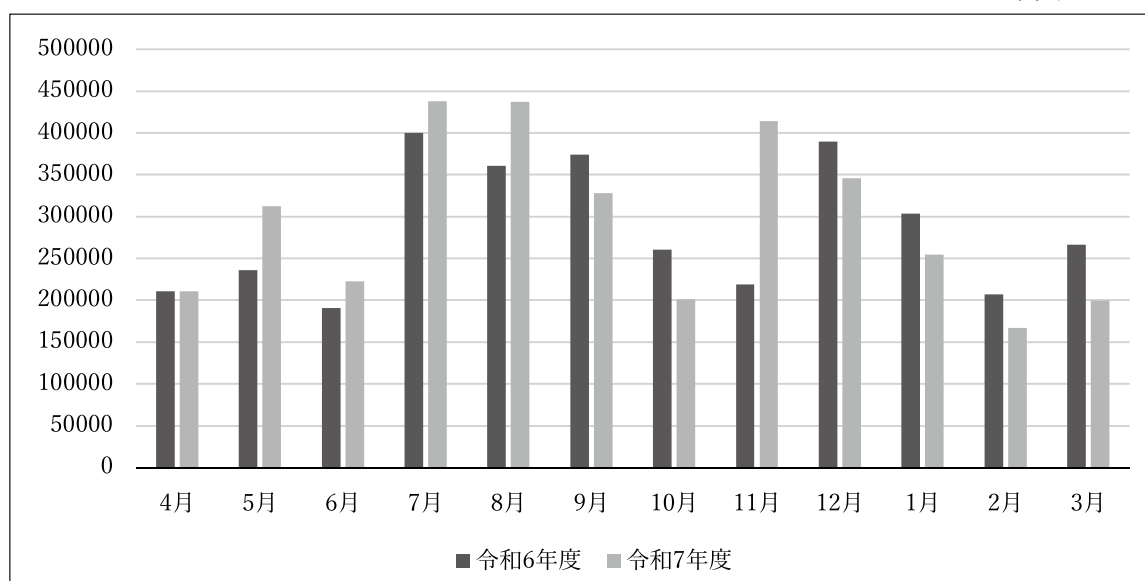
販売員として利用者2名参加し、接客等を行っている。

③その他（果物、麺類、日本ハム販売等） [売上 1,097,580円 前年度対比 130,940円の増]

野村醤油のはまな味噌、内田製麺の生蕎麦や麺類、ピュアファームの果物、日本ハムの注文販売、福井県セルプからの販売斡旋で麺の販売を行った。

(販売収益比較表)

(単位：円)



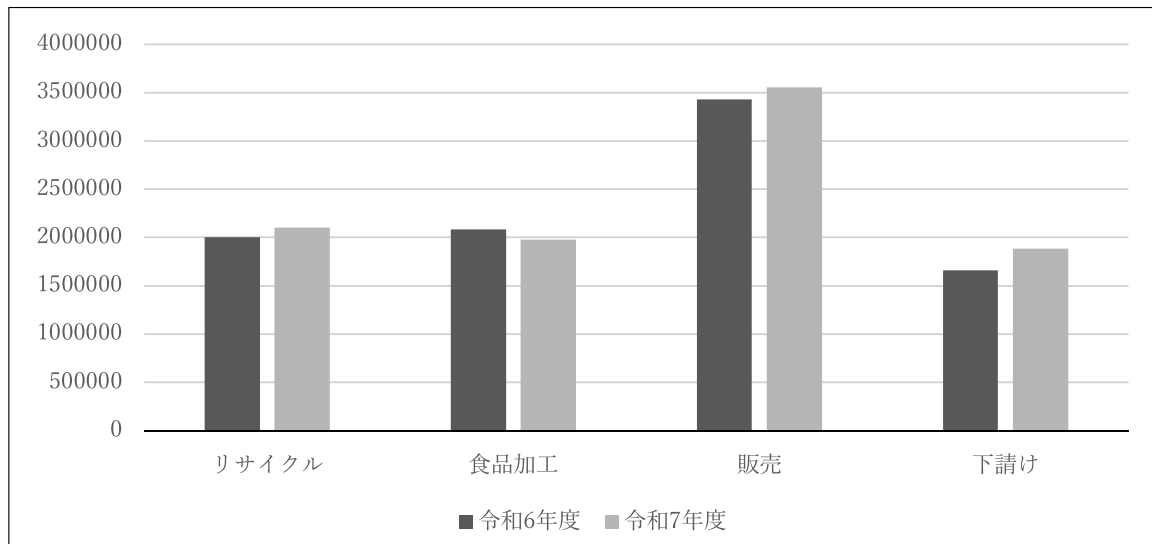
(5) 参加イベント

4月	七間楽市 父母の会	10月	七間楽市 あけぼの園ベル販売会（委託）
5月	七間楽市	11月	七間楽市 奥越特別支援学校「おくえつ学校祭」
6月		12月	
7月		1月	
8月	上庄夏祭り	2月	
9月	福井矯正展 七間楽市 福井県セルプ県庁委託販売	3月	七間楽市 あけぼの園ベル販売会（委託）

DM販売・福井県セルプ主催の販売会（福井市役所・鯖江市役所）（通年）

## (6) 事業種別売上表

(単位：円)



(単位：円)

	令和6年度	令和7年度
リサイクル	2,002,580	2,100,390
食品加工	2,096,444	1,992,879
販売	3,418,054	3,532,612
下請け	1,658,631	1,883,605
計	9,175,709	9,511,246

## (7) 作業工賃年度別比較表

(単位：円)

	令和6年度	令和7年度
4月	339,485	366,240
5月	362,455	357,370
6月	313,820	364,650
7月	274,090	386,100
8月	304,415	377,895
9月	248,995	303,695
10月	324,040	368,040
11月	355,740	318,640
12月	359,120	364,030
1月	353,360	343,070
2月	327,560	298,775
3月	339,330	249,095
計	3,902,410	4,097,600

(8) 作業工賃年度別比較表

(単位：円)

	総支払額	平均月額
令和6年度	3,902,410	28,155
令和7年度	4,097,600	30,235

【4】全体活動

(1) レクリエーション活動

慰 労 会 「大野市福祉ふれあいまつり」「アールブリュット展」  
「越前おおの産業と食彩フェア」「道の駅荒島の郷」見学

自治会活動 (希望外出「あびすや」、季節毎に行事実施)

合同行事 クリスマス会 (むつみ園で実施)

地域の方がボランティアで参加され、交流を図る。

防 災 訓 練 年1回実施 (9月12日)

感染症対策訓練 12月1日に実施。その後フローシートと対応チェック表を作成する。

(2) 環境整備 溝掃除、除草は随時実施。作業室清掃は毎日行い、土曜日 (月2回)

は朝礼後に館内清掃を実施。害虫・ねずみ駆除を業者委託で実施 (年2回)

## V 共同生活援助事業（グループホーム）

### 【1】利用者状況

（令和8年3月現在）

ホーム名	現員数	最低年齢	最高年齢	平均年齢	平均支援区分
ひまわり（5）	男性5名	49歳	76歳	61歳	2
かささぎ（4）	女性4名	55歳	81歳	69歳	4.5
たんぽぽ（5）	男性4名	64歳	81歳	75歳	4
うぐいす（5）	女性4名	56歳	77歳	67歳	2

※（ ）定員

### 【2】入退居の状況

令和7年12月24日 うぐいすホーム 女性1名 退去

（障害者支援施設九頭竜ワーク上野の郷入所）

### 【3】日中活動の状況

（令和8年3月現在）

種 類	人 数	サービス提供事業所等
生活介護	1	むつみ園
就労継続B型	12	よもやま・セルプあすなろ
就労（障害者雇用）	2	むつみ園・大野荘
作業実習	1	大野荘
居宅介護サービス	2	デイサービスさくらの家 （※就労B型との併用）
短期入所生活介護	1	ルンビニー花園

### 【4】支援体制

サービス管理責任者 1名 生活支援員 3名（兼務：常勤換算2.1）看護師 1名  
世話人9名（常勤換算4.6）

昨年より看護師の配置が継続され、高齢化で増え続ける受診や通院、日常の健康観察や不調時のホーム訪問と、利用者の健康維持や医療面での支援のより一層の充実が図られた。特に今年度にいたっては、がん検診後の精密検査から手術や入院、退院後のケアなど専門的なケアが必要なケースがあり、利用者やご家族はもとより、私たち支援員も安心して支援提供することが出来ている。

### 【5】地域とのつながり

4月12日（日）春日二丁目西区 通常総会

6月15日（日）陽明町二区3班 班活動：さくら公園清掃

7月20日（日）陽明町全戸 社会奉仕作業（川泥上げ、公園掃除）

3月8日（日）春日一丁目中区定期総

## 【6】令和7年度 第1回地域連携推進会議

会 議：令和7年9月28日（日）10：00より

場 所：むつみ園地域交流ホールあかね寮

参加者：利用者、利用者家族、大野市福祉課、地域の福祉関係者

計6名 ※地域の関係者（ホーム地域の区長）は当日欠席

見 学：同日、会議終了後、3ホーム見学

（うぐいすホームのみ、利用者の同意得られず見学無し）

## 【7】人権擁護・虐待防止の取組

取組内容	実施時期	対象者
支援振り返りシート	奇数月世話人会時に配布	全世話人
スペシャルラーニングを用いての研修	毎月世話人会時	世話人会参加者
ホーム毎の虐待防止研修	ひまわりホーム（7月25日） うぐいすホーム（9月10日） かささぎホーム（9月25日） たんぼぼホーム （話し合いは実施できず、2月に虐待防止マネージャーがグレーゾーンな支援を行っていないかについて説明した。）	管理者、虐待防止マネージャー、看護師、世話人

- ・日頃の支援振り返りシートを隔月で行う事で、自身の支援を振り返る機会としている。「はい・いいえ」での回答形式を取っており、シート実施後には設問について世話人から支援を振り返って相談がある事もあり、虐待防止の一助となっている。
- ・スペシャルラーニングを用いての研修は、その月に応じてテーマを定め、世話人会時に動画を視聴し、それぞれの感想を話し合う時間を設けている。参加者からの感想を話し合う時間を設ける事で、動画を見流しにならないように配慮し、動画から学んだ内容を確認し合う事で、その効果を高めている。
- ・ホーム毎の虐待防止研修は、たんぼぼホームのみ実施出来なかったものの、支援者間で利用者様の支援の状況を共有し、多面的に利用者様を理解出来るように努めている。また、支援の統一の機会にもなり、ホームでの支援力の向上につながっている。

## 【8】世話人会の開催

世話人会は、毎月最初の平日に開催している。令和7年度は6月のみ感染症拡大防止のために中止とした。

世話人会では、その月の予定や支援者間で共有しておきたい内容を確認し、各ホームから利用者様の現状や支援においての悩みについて共有している。

日頃、世話人は各ホームで1人で支援に当たっている。世話人会時にホームの現状を共有する事で、日頃の支援のヒントにしたり、悩みについて、それぞれの立場から意見を出し、話し合いを持つ事で、世話人が孤立せず、チームとして支援するという意識を高め、安心して日頃の支援にあたるように努めている。

【9】個別支援計画に基づく活動



## Ⅵ 相談支援事業

### 【1】指定特定相談支援・指定障害児相談支援

#### ・計画相談支援

市町からの支給決定内容に基づき、サービス等利用計画（障害児支援利用計画）の作成およびモニタリングを対応した。また、サービスの変更・調整を伴うときには、適宜、臨時のモニタリングやサービス担当者会議を開催して対応した。

特定相談での新規契約件数は1件、障害児相談での新規契約件数は1件だった。一方で、特定相談での終了件数は4件、障害児相談での終了件数は0件だった。内訳としては、「介護保険への移行」が2件、「障害福祉サービス終了」が2件だった。

#### ・基本相談支援

ご本人・ご家族からの相談内容に応じながら、福祉サービスに限らず生活情報や社会資源に関する情報提供を行った。

#### ・令和7年度 件数報告

##### 〈上半期〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
契約件数（※月末時点）	67 (8)	68 (8)	67 (8)	68 (8)	67 (8)	68 (8)
新規件数	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
終了件数	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)
モニタリング件数	15 (1)	11 (0)	19 (3)	17 (1)	9 (2)	9 (3)
計画案作成件数	1 (0)	0 (0)	3 (0)	1 (0)	1 (1)	2 (2)
本計画作成件数	2 (1)	1 (0)	0 (0)	3 (0)	1 (0)	1 (1)
加算対象件数	2 (1)	2 (1)	6 (1)	2 (0)	1 (1)	1 (0)

##### 〈下半期〉

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
契約件数（※月末時点）	68 (8)	67 (8)	67 (8)	67 (8)	67 (8)	66 (8)
新規件数	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
終了件数	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
モニタリング件数	14 (1)	11 (0)	15 (1)	18 (0)	9 (2)	11 (3)
計画案作成件数	3 (1)	4 (0)	5 (2)	8 (0)	3 (1)	3 (1)
本計画作成件数	2 (2)	3 (1)	4 (0)	5 (0)	8 (0)	3 (1)
加算対象件数	2 (0)	4 (0)	9 (1)	5 (0)	5 (0)	8 (2)

##### 〈令和7年度 総件数（前年度比）〉

モニタリング：158 (17) 【-4】	本計画作成：33 (8) 【-1】	加算申請：47 (7) 【+13】
----------------------	-------------------	-------------------

※（ ）の数値は障害児の内訳

## 【2】指定一般相談支援

### ・地域移行支援

地域移行支援の実績および新規契約件数は0件だった。

### ・地域定着支援

地域定着支援の実績および新規契約件数は0件だった。

## 【3】生活困窮者自立相談支援事業

大野市自立相談自立支援センターふらっと

### 【令和7年度の実施状況】

29件の新規相談を受け付けた。主な相談内容は「収入・生活費」「債務」「失業・休職」に関するものだった。プランは17件作成し、自立に向けて家計相談や就労支援を実施した。また、任意事業だけでなく、貸付やふく福くらしサポート、食糧支援等を利用し、必要と判断した場合には生活保護など他の制度につないだ。

### 1. 自立相談支援事業

相談件数 令和6年度：49件 令和7年度：29件

	令和6年度		令和7年度	
	人数	比率	人数	比率
性別				
男性	24	49%	19	66%
女性	25	51%	10	34%
不明	0	0%	0	0%

	令和6年度		令和7年度	
	人数	比率	人数	比率
世帯				
単身	22	44%	12	41%
複数	27	54%	17	59%
不明	1	2%	0	0%

相談経路	令和6年度		令和7年度		
	人数	比率	人数	比率	
本人	来所	11	22%	13	45%
	電話	5	10%	1	3%
家族知人	来所	3	6%	6	21%
	電話	2	4%	0	0%
関係機関	21	43%	8	28%	
その他	7	15%	1	3%	

年代	令和6年度		令和7年度	
	人数	比率	人数	比率
10歳代	2	4%	0	0%
20歳代	0	0%	1	3%
30歳代	10	20%	1	3%
40歳代	12	24%	6	21%
50歳代	6	13%	4	14%
60～64歳	6	12%	1	3%
65歳以上	9	19%	12	42%
不明	4	8%	4	14%

相談内容	R 6	R 7
失業・求職について	35	24
収入・生活費について	43	25
債務について	23	18
家族・本人の健康・病気・障害について（医療費が高い等）	26	3
住まい・家賃について	14	6
家族関係・人間関係について	17	11
家族・本人のひきこもり・不登校について	11	11
子育て・介護について	0	0
その他	32	11

## 2. 住居確保給付金・家計改善支援事業・就労準備支援事業

- 1) 住居確保給付金            利用実績    0名
- 2) 家計改善支援事業        利用実績    1名
- 3) 就労準備支援事業        利用実績    1名

### 【今後について】

つながる会議が定着して2年目は異業種とつながる多機関連携を強化した。その結果、個別の事情に配慮した「ちょこっと就労」という働き方によって、新しい就労の形を実現することができた。ひきこもり相談者も短時間就労なら行ってみたいという気持ちから収入を得られることで気持ちの変化がみられた。相談者の年齢幅は広く、年金が少ない高齢者からひきこもりや求職活動中の世代まで就労先を見つけ誰かとつながることができている。時間の隙間、仕事の隙間をみつけ活躍できる場所を見つけて自立から自律支援を目指したい。

## Ⅶ 地域公益事業

### 【1】事業の状況

県内の法人連携による、ふく福サポート事業及び法人独自の緊急一時宿泊事業を社会貢献事業として位置づけ、様々な問題を抱えた方々の自立を支援し、生活困窮に陥らないよう一体的な支援を実施している。

法人連携による生活困難者の総合相談・生活支援事業（ふく福サポート事業）については、延べ13件の相談があった。

また、法人独自の事業として行っている緊急一時宿泊事業については、2件（男性1名、女性1名）の受入があり、当法人の地域貢献事業として今後も継続して事業展開を行うこととする。

### 【2】生活困難者総合相談・生活支援事業

令和7年度実績

(件)

	新規相談	継続相談	現物給付	返還金対応
4月		3	2	
5月	1	2	1	
6月	1	1	1	
7月	1			1
8月		2		
9月	1	2	1	
10月		2		
11月	2	2	3	
12月		1	1	
1月	3	1	3	
2月		1	1	
3月		1	1	
計	9	18	14	1

相談から現物給付に至るまでの過程において、緊急性が高い事案が多く、あまり時間を掛けられない現状の中で、困窮の度合いや支援の必要性を見極めるのは非常に判断が難しかった。支援後、生活保護になった方や、就労先を見つけ自立した生活を送っている方など様々なケースがあるが、支援をする事で相談者と関係機関とのつながりを築き、少しでも生活環境が改善されるように努めていきたい。

### 【3】緊急一時宿泊事業

受け入れ実績

	氏名	性別	利用期間	利用理由	利用後
1	A	女性	5月9日～5月27日	DVのため	親族のアパートへ
2	B	男性	3月3日～3月16日	車上生活 生活困難	最終日に不在

<利用状況>

2件の利用があった。Bさんは最終日に不在にて利用終了となる。

## Ⅷ 地域支援課

### 職員研修

#### 【1】派遣研修実績

大野荘

実施月	研修会名	主催者（場所）	参加職種	人数	研修内容
4月	第1回 相談支援連絡会	勝山市福祉健康 センターすこやか	相談支援 専門員	1	令和7年度年間計画、意見交換
	令和6年 度福井県社会就労 センター総会	福井県社会福祉 センター	施設長	2	令和6年度事業報告および収支 決算（案）について 令和7年度事業計画および収支 予算（案）について
	令和6年度 福井県知的障害者福 祉協会定期総会	福井県国際交流会 館	常務理事 施設長	3	令和6年度事業報告及び 収支決算書報告について
	令和7年度 大野市福祉施設連絡 協議会総会	竹田屋	施設長 課長	3	令和6年度事業経過報告・収支 決算報告・会計監査報告につい て 令和7年度事業計画・収支決算 （案）について
	令和6年度 第1回ひきこもり支 援関係機関職員研修 会	(オンライン研修)	専門員	1	ひきこもりの基本的理解
5月	大野市社会福祉協議 会会長表彰者委員会	結とぴあ	施設長	1	表彰者の選考
	ふくいインターン シップフェア	福井県産業会館	課長	1	福井県が主催するインターン シップに関する企業説明会
	令和7年度 福井県老人福祉施設 協議会総会及び 第1回施設長会議	ザ・グランユアー ズフクイ	施設長	1	令和6年度事業報告並びに収支 決算について 令和7年度事業計画並びに収支 予算（案）について
	奥越明成高校介護実 習説明会	奥越明成高等学校	支援員	3	2年生介護実習打合せ
	北陸三県救護施設連 絡協議会役員会	石川港クルーズ ターミナル	施設長 課長	2	令和6年度事業報告並びに収支 決算について 令和7年度事業計画並びに収支 予算（案）について
	ひきこもり支援関係 機関職員研修会	(オンライン研修)	専門員	1	家族への相談対応方法 回復への道筋の示し方
	令和7年度 救護施設経営者・ 施設長会議	全国社会福祉協議 会灘尾ホール	施設長	1	全国救護施設協議会協議員総会 行政説明・講義・情報交換会
	第2回 相談支援連絡会	勝山市福祉健康 センターすこやか	相談支援 専門員	1	グループスーパービジョン 意見交換
	ひきこもり支援者相 談	福井県総合福祉 相談所	専門員	1	医師による個別相談
	令和7年度 奥越地区生活保護受 給者等就労自立促進 事業協会	大野市公共職業 安定所	相談員	1	生活保護受給者等就労自立促進 事業について

5月	福井県社会就労センター協議会 「企画・広報部会」	福井県社会福祉センター	支援員	1	令和7年度の企画・広報事業について
	福井県社会福祉事業者共済事業事務説明会	(オンライン研修)	係長	1	退職共済事業の運営規定改正と各種事務手続きの留意点について
6月	ひきこもり支援関係機関職員研修会	(オンライン研修)	専門員	1	家族への相談対応方法 具体的な関り方の示し方
	令和7年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程初任者コース	福井県社会福祉センターと (オンライン研修)	支援員	1	福祉サービスの基本理念と理論など福祉の基礎と共に、社会人としてのコミュニケーションや接遇を学び、仕事での自分の役割を考える
	配偶者からの暴力に関する初任者研修会	(オンライン研修)	専門員	1	配偶者暴力を理解する3つのコツと相談時の注意点 福井県の配偶者暴力相談状況および相談対応について
	要配慮利用者施設の避難訓練に係る講習会	大野市文化会館	支援員	1	避難訓練の必要性や防災気象情報の活用について
	第3回相談支援連絡会	勝山市福祉健康センターすこやか	相談支援専門員	1	グループスーパービジョンと意見交換
	令和7年度支援ツールセミナー	(オンライン研修)	専門員	1	支援ツールの意義と使い方を知る
7月	奥越地区障害者自立支援協議会	結とぴあ	相談支援専門員	1	大野市と勝山市の委託相談の件数、各部会相談支援連絡会の取り組み、大野市勝山市の障害福祉計画の目標と進捗状況、講義とグループディスカッション
	令和7年度福井県老人福祉施設協議会	福井県生活学習館ユー・アイふくい	施設長	1	第5回ソフトバレーボール大会第1回実行委員会
	第4回相談支援連絡会	結とぴあ	相談支援専門員	1	グループスーパービジョンと意見交換
	令和7年度(第54回)北陸中部地区救護施設研究協議大会	新潟東映ホテル	施設長 係長 支援員	5	地域生活への移行に向けたセーフティネットとして救護施設の機能を広げる
8月	令和7年度ソーシャルワーク実習関係者会議	(オンライン研修)	支援員	1	ソーシャルワーク実習関係者会議開催について
	令和7年度第1回施設経営セミナー法人組織運営	(オンライン研修)	課長	1	社会福祉法人指導監査実施要綱に基づく組織運営について
	令和7年度福井人権教育指導者研修会	(オンライン研修)	課長	1	人権教育啓発活動を推進するため、深い認識と実践力を持った指導者を養成する事を目的とした研修会
	第5回相談支援連絡会	結とぴあ	相談支援専門員	1	地域生活支援拠点について奥越圏域の相談支援体制について
	第3回福井県老人福祉施設協議会施設長会議 第2回人材広報委員会	武生商工会議所 パレットAB	施設長	1	第5回ソフトバレーボール大会第1回実行委員会 研修講演「令和6年度決算の傾向と対策について」

8月	令和7年度 福井県経営セミナー (前期)	福井県生活学習館	課長	1	2040年に向けた全国経営協の取 り組みやカスハラに対する組織 的対応等を学ぶ
	福井地域保健・福祉・ 環境関係職員研修	奥越健康福祉セン ター	課長	1	災害発生時に地域関係者が、住 民の二次的健康被害を最小限に 抑えるため、避難者のニーズを 迅速に把握し的確な対応ができ る
	令和7年度 高齢者・障害者福祉 施設対象ハラスメン ト(対応困難事例) 研修	福井県社会福祉 センター	課長	1	ハラスメント被害の実態を理解 し、被害を未然に防ぐための具 体的な方法や、被害を受けた職 員との向かい合い方等、ハラス メント被害者対策への労働環境 改善の意識を高める研修
9月	令和7年度第 1回ミュージックケ ア研修会	福井県社会福祉 センター	支援員	1	実践を通してミュージックケア について学ぶ
	令和7年度 福井県社会就労セン ター協議会職員研修 会	福井県生活学習館 ユウ・アイふくい	相談支援 専門員 支援員	1	就労選択支援事業への取組み について
	令和7年度 第1回シンポジウム・ 孤立・孤独対策官民 プラットフォーム	(オンライン研修)	専門員	1	つながりの中で暮らす～これか らの時代の住まい、互助につい て考える
	第6回 相談支援連絡会	勝山市福祉健康 センターすこやか	相談支援 専門員	1	グループスーパービジョン、意 見交換
	令和7年度 自殺対策と他制度と の連携構築に関する 研修会	(オンライン研修)	専門員	1	地域福祉・消費者行政を含め た「生きることの包括的な支援」 へ
	大野市福祉施設連絡 協議会研修会	結とぴあ	施設長 課長 係長 事務員	4	福井地区气象台出前講座～気候 による災害への備え～
10月	第47回 全国救護施設研究協 議大会	紅陽グランドホテ ル	課長 係長	2	救護施設にできること～地域共 存社会の実現に向けて求められ るものを考えよう～
	第7回 相談支援連絡会	結とぴあ	相談支援 専門員	1	グループスーパービジョン、意 見交換
	福井県立大学社会福 祉学科特別講義	福井県立大学永平 寺キャンパス	支援員	1	救護施設の特徴及び機能、ソー シャルワークの機能と役割、 ソーシャルワーク実習を行う際 の留意点等
11月	令和7年度 福祉サービス苦情解 決機能強化セミナー	福井県産業会館	施設長 課長	2	事業所への苦情への対応や姿勢 に関する知識を深め、福祉サー ビスの質の向上の一助となる
	ひきこもり支援ハン ドブックに基づく人 材研修(全国)	(オンライン研修)	専門員	1	社会モデル視点によるアセスメ ントと実践、ひきこもり支援ハン ドブックに関する意見交換 会、支援者のケアと心理的安全 性が保たれた職場づくり
	第1回 支援スタッフ委員会	福井県社会福祉 センター	支援員	1	令和7年度の活動について

11月	令和7年 大野市自衛消防クラブ研修会	大野市消防本部	課長	1	各事業所における防火・防災対策の向上
	第19回 北陸三県救護施設連絡協議会役員会	K K R ホテル金沢	施設長 係長 支援員 介助員	5	中央情勢報告 分科会
	令和7年度 生活困窮者自立支援 制度人材養成研修	ビジョンセンター 東京虎ノ門ヒルズ	専門員	1	就労支援員・就労準備支援初任者研修
	2025年度健康経営研修会	(オンライン研修)	係長	1	健康経営の概略を知り、職員が健康である事が結果として、事業所満足につながることを学ぶ
	令和7年度 第2回ミュージック ケア研修会	障がい者支援施設 大日園	支援員	1	ミュージックケアの知識や技術について学ぶ
12月	かすみが丘学園との 合同研修会（権利擁護・虐待防止）	かすみが丘学園 ライフかすみセンター	施設長 係長 支援員	4	各施設における虐待防止に関する取り組みを知り、今後の支援や対応に活かしていく
	令和7年度 生活困窮者自立支援 制度人材養成研修	リファレンス名古屋 栄栄貸会議室 ナディアパーク	専門員	1	初任者向け研修
	令和7年度 第4回ひきこもり支援 関係係機関職員研修会	福井県光陽分庁舎	専門員	1	みんなで学ぶひきこもり支援ハンドブック寄り添うための羅針盤
	令和7年度 嘔吐物処理研修会	勝山市福祉健康 センターすこやか	支援員	1	高齢者施設での感染症胃腸炎による嘔吐物処理研修会
	携帯電話の不正利用 防止法改正による影響と 対策セミナー	(オンライン研修)	係長 支援員	2	生活保護者の携帯電話契約の現状と対策
1月	令和7年度 全国厚生事業団体連絡 協議会研究会議	全国社会福祉協議会 灘尾ホール	係長	1	行政説明、基調報告、シンポジウム、分科会
	令和7年度 ソーシャルワーク実習 報告会	(オンライン研修)	支援員	1	ソーシャルワーク実習報告会開催について
	第10回 相談支援連絡会	結とびあ	相談支援 専門員	1	グループスーパービジョン、意見交換
2月	北陸中部地区救護施設 協議会役員会	ホテル金沢	施設長	1	令和7年度協議会・研究協議大会の収支決算の承認について 令和8年度協議会・研究協議大会の収支予算（案）について 令和8年度研究協議大会日程（案）、役割分担について
	就労選択支援モデル 事業報告会	(オンライン研修)	相談支援専門員	1	事例紹介・質疑応答
	支援スタッフ委員会 職員交流会	新横江公民館 体育館	支援員	1	職員交流ソフトバレー ワールドカフェ
	福井県内社会福祉法人 連絡協による能登半島 災害支援活動	石川県輪島市内 仮設住宅団地内の 集会場	施設長	1	足湯の提供と会話を通じてのつばやき拾い お茶コーナーでの住民同士のおしゃべり、交流促進

2月	第10回 相談支援連絡会	結とぴあ	相談支援専門員	1	専門研修「介護保険の移行について」 意見交換
	令和7年度 生活困窮者自立支援 制度従事者研修会	福井県庁	専門員	1	生活困窮者自立支援制度説明 事例報告 グループワーク
3月	令和7年度 「災害時の福祉支援 体制づくりネット ワーク会議」	勝山市福祉健康 センターすこやか	支援員	1	意見交換
	令和7年度 福井県奥越明成高等 学校進路ガイダンス	奥越明成高等学校	支援員	2	職業・産業や多彩な働き方に関する理解を深め、将来の進路選択やキャリア形成等に関し主体的に考える契機とする。
	中小企業で取り組めるメンタルヘルス対策	国際交流会館	支援員	2	中小企業で取り組めるメンタルヘルス対策講和
	令和7年度 大野市自衛消防クラブ委員会	大野市消防本部	施設長	1	令和7年度事業報告について 令和8年度事業計画（案）について 役員改選について
	第12回 相談支援連絡会	勝山市福祉健康 センターすこやか	相談支援専門員	1	令和7年度の振り返りと令和8年度の計画について GSWで得られたアイデアの取組結果や経過報告

むつみ園・よもやま・グループホーム

実施月	研修会名	主催者（場所）	参加職種	人数	研修内容
6月	令和7年度 北陸地区知的障害者福祉協会施設長会議	福井県民ホール	施設長 管理者	2	総会・中央情勢報告・施設種別部会
	令和7年度 食品衛生講習会	大野市結とびあ	よもやま サービス 管理責任者	1	食品衛生上の気概の発生防止および食品衛生に関する新たな見地の習得を目的として開催する。
	要配慮者利用施設の避難訓練に係る講習会	大野市文化会館	GHサービス 管理責任者 管理者	2	避難訓練の必要性や防災気象情報の活用について
7月	全国知的障害関係施設長等会議	東京国際フォーラム	施設長	1	障害福祉の未来と展望 質の高い障害福祉サービスの提供のために
	第59回 北陸地区知的障害関係施設職員研修大会	金沢市文化ホール、金沢ニューグランドホテル	係長	1	講義、グループワーク、基調講演
8月	社会福祉法人経営セミナー	福井商工会議所	施設長	1	福祉・介護施設におけるハラスメント対応について
	令和7年度 福井県人権教育指導者研修会（WEB開催）	むつみ園面会室	施設長	1	部落差別を明確に禁止した日本国憲法の意義について
9月	第1回ミュージックケア研修会	福井県社会福祉センター	支援員	1	実践を通してミュージックケアを学ぶ
	令和7年度 危険物取扱者保安講習	むつみ園多目的室	支援員	1	消防法第13条の23に基づく危険物取扱者保安講習（オンライン型講習）
	大野市福祉施設連絡協議会 研修会	結とびあ 多田記念大野有終会館	施設長 係長 支援員 看護師 栄養士	8	福井地方気象台出前講座 気候による災害への備え
10月	令和7年坂井・奥越地域保健・福祉・環境関係職員研修災害対応研修【地震・要配慮者支援編】	福井県奥越健康福祉センター	係長	1	避難所の課題分析～避難者の健康を守るために～
	第8回 福井県知的障害者福祉協会職員研修会	福井市地域交流プラザ	施設長 サービス管理責任者 係長 支援員 看護師	5	ともに学び、共に語ろう、これからの福井の福祉を
11月	福井県知的障害者福祉協会虐待防止・権利擁護委員会人事交流研修	①障害者支援施設 若越ひかりの村 ②すだちの家	支援員	2	他法人の事業所見学を行い、虐待や権利擁護に関しての意見交換をする
	令和7年度 障害福祉サービス苦情解決機能強化セミナー	福井県産業会館	施設長 管理者 課長	3	苦情対応の取組状況 リスク管理と危機管理
	令和7年度 大野市自衛消防クラブ研修会	大野市消防本部 大野市消防訓練所	管理者	1	リチウムイオン電池火災についての講義、火災初期対応シュミレーション訓練

11月	令和7年度 福井県知的障害者福祉協会 虐待防止・権利擁護委員会研修会	福井市 きらら館	課長 支援員	2	権利擁護・虐待防止体制の整備、 県内虐待事案報告等について
	北陸地区知的障害者福祉協会 障害者支援施設部会施設長会議	福井市地域交流プラザ アオッサ	施設長	1	障害者支援施設の役割と機能・ 労務管理
	令和7年度 第2回ミュージック・ケア研修会	障がい者支援施設 大日園	支援員	1	ミュージック・ケアセッション 施設見学
	令和7年度 福井県強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)	福井県生活学習館	支援員	1	強度行動障害のある人への支援 を適切に行えるよう、知識と技術 を得る
12月	日中活動支援部会全国大会 北陸地区新潟大会	ANAクラウンプラザホテル新潟	施設長 サービス管理責任者	2	「本人の希望に応えるための支援 とは」～個人の意思の尊重が当 たり前となる未来に向けて～
	第38回全日本自閉症支援者協会福井大会	ホテルフジタ福井	支援員	1	自閉症児者への支援を通して、 お互いの成長の楽しさを知る
	障害者支援施設部会全国大会	ヒルトン名古屋ウインクあいち	施設長 支援員	2	障害者支援施設の無限の可能性 ～地域の中で活かす私たちの専 門性～
	かすみが丘学園との合同研修会（権利擁護・虐待防止）	かすみが丘学園	課長 係長 支援員	4	各施設における虐待防止に関する 取り組みを知り、今後の支援 や対応に活かしていく
	令和7年度 北陸地区知的障害者福祉協会 地域支援部会・相談支援部会 合同職員研修会	福井市地域交流プラザ AOSSA	管理者 サービス管理責任者	2	地域を基盤としたソーシャル ワークについて、相互に学び合 い、語り合う。 北陸地域の障害者福祉活動の質 の向上を目指す職員の研鑽の場
1月	令和7年度 栄養管理推進研修会(高齢者の栄養)について	むつみ園内 Microsoft Teams	栄養士	1	「学会分類2021」と嚙下調整食の 実際についての講義
2月	福井県知的障害者福祉協会 「支援費加算勉強会」	福井県社会福祉センター	施設長 サービス管理責任者 事務員	5	支援加算について
	福井県経営協 セミナー(後期)	福井県自治会館	施設長	1	社会保障・社会福祉をめぐる動 向と全国経営協の取組を踏ま えて
	令和7年度 福井県強度行動障害支援者養成研修 (フォローアップ研修)	福井県社会福祉センター	係長 支援員	2	強度行動障害を有する者等への 支援に要する知識や技術の向上 と充実を図る
	令和7年度 障害者虐待防止マネージャー研修会	むつみ園 (録画配信)	施設長 課長	2	行政説明・基調講演・対応事例 報告
	令和7年度 3団体合同研修会	福井県立図書館 多目的ホール・ 研修室・ エントランス	サービス管理責任者 支援員 看護師	4	「さまざまな事例から学ぶスマホ の取り扱いについて」 ～あなたのそばに危険が忍び 寄っていませんか～
3月	中小企業で取り組める メンタルヘルス対策	国際交流会館	係長	2	講演

【2】所内研修（大野荘・むつみ園・よもやま・グループホーム）

		研修項目	研修の内容	講師	参加者(人)
5月	大野荘	防災防犯新任研修	防災、防犯への理解を深める	貝川施設長	1
	大野荘	極刻み・ミキサー食体験会	利用者が普段食べている食事を試食し、より良い支援に繋げる	鳥山係長 鈴木係長 吉田職員	33
7月	大野荘	感染対策研修	ノロウイルス、吐物処理について学ぶ	江波係長	48
9月	合同	ハラスメント研修	ハラスメントについて学び、サービスの向上に繋げる	オフィス Haarmony 青木基和氏	37
10月	大野荘	感染対策研修	ガウンテクニックの習得	江波係長	48
	大野荘	感染対策研修	スペシャルラーニングを視聴し、感染症の予防について学ぶ	SL	44
11月	大野荘 むつみ園	成年後見成制度について	成年後見制度について理解を深める	上坂法律事務所 岩本雄太氏	42
	合同	救命救急講習会	福祉避難所として役割を学ぶ	大野消防署職員	50
2月	合同	虐待防止研修	虐待防止、身体拘束について学ぶ	ハーモニー かすみ 番場知明氏 山田隆典氏	38
	合同	BCP研修	スペシャルラーニングを視聴し、BCPについて学ぶ	SL	64
3月	大野荘 むつみ園	オムツの当て方講習会	正しいオムツの当て方について学ぶ	ユニ・チャーム 石蔵ひろみ氏	29
2月	むつみ園	虐待防止について	むつみ園のグットゾーン及びグレーゾーンを用いてグループワーク実施	長谷川課長	17
3月	むつみ園 よもやま	利用者の尊厳	チェックリストを用い利用者の尊厳について考える	長谷川課長 西川係長	23
	むつみ園	身体拘束について 守秘義務について	スペシャルラーニングを活用身体拘束と守秘義務について ※視聴しレポート提出	SL	17

### 【3】復命報告

6月：強度行動障害支援者養成研修（フォローアップ研修）

8月：三団体合同研修会に参加をして（支援員）

11月：北陸中部地区救護施設研究協議大会（係長）

12月：北陸地区知的障害関係施設職員研究大会（係長）

今年度も職員会議終了後に復命報告をした。

### 【4】各種研究会

#### （1）ケアマネ研究会

今年度も昨年に引き続き福井県立大学助教牛場氏に講師を依頼し、年3回の活動を行った。第1回目は講義、2回目・3回目は事例検討を行った。

1回目の講義では、昨年度の振り返りと相手を理解する事、感情労働について学んだ。2回目の事例検討では、まず様々な事例検討の方法について講義を受けた後、大野荘利用者の事例を元に参加者全員で話し合った。今回の事例検討では「村中らのPIKAGIP方式」と使用し、事例検討を行った。参加者が記録をとらず、新しい方向性を見出していく検討法との説明を受けた。また検討前の説明ではファシリテーターに求められるスキルについても学んだ。

3回目は事例検討前に個別支援計画と事例検討のプロセスについて説明を受けた後、むつみ園利用者の事例を元に「野中式」と「十文字表」を用いて検討を行った。本人のストレングスや特徴等を参加者全員で話し合い、それを元に本人が行う事、周りが行う事、速度間がどうかなどを表に当て込んで、支援の方向性を話し合った。事例検討後にはケアマネジメントに必要な思考と視点について学び、今年度の総括を行った。

今年度は嘱託職員の参加があり、幅広い職員に学びの機会を提供できる場になった。今後も福祉会の職員が一人でも多く参加し、個別支援計画の立案や利用者支援のスキルをアップできるようにケアマネ研究会を継続していきたい。

#### （2）利用者支援研究会

松原病院の公益事業として、大野福祉会と合同で研究会を実施した。

第1回は令和7年5月22日、松原病院リハビリテーション科の川崎氏に講師を依頼し「明日から使えるレクの戦略」をテーマに、グループワークとレク実践を実施し大野荘、むつみ園の職員16名が参加した。

第2回は令和8年2月26日、松原病院リハビリテーション科の菅原氏に講師を依頼し「興味や意欲を引き出すリハビリテーションのポイントを学ぼう」をテーマに講義と実践を実施し大野荘、むつみ園の職員10名が参加し実際に体を動かして体験した。

また、令和8年3月14日に開催された松原病院主催の講演会「中小企業で取りこめるメンタルヘルス対策」の講師としてMDA-Japanうつ気分障害協会理事長山口律子氏の講演に大野福祉会から2名の職員が参加した。

近隣の福祉施設を交えての研究会は実施しておらず、今後どのような形式で開催していくか検討が必要である。

## 【5】行事企画

(行事月別実施表)

月	日	大野荘	日	むつみ園
5	29	小山小学校体育大会		
6	6	第37回福祉ふれあいまつり	6	第37回福祉ふれあいまつり
			30	バスドライブ（奥越地城） ゆめおーれ勝山体験
7	6	第41回大野市福祉スポーツ大会	6	第41回大野市福祉スポーツ大会
	31	交流レクレーションペタンク大会		
8	6	ふれあい夏祭り	6	ふれあい夏祭り
			29	施設福祉コンサート 「TOMOCHIKA890」
9	3	日帰り旅行①	17	日帰り旅行
	11	日帰り旅行②		
	27	福井しあわせパラ☆スポーツデー	27	福井しあわせパラ☆スポーツデー
10	30	大野市総合文化祭	16～17	一泊旅行
			30	大野市総合文化祭
11	7	物故者法要	7	物故者法要
	8	ふれあい茶会		
12	11	クリスマス会（アトラクション・おやつ・プレゼント配布）	7	交流行事 クリスマス会（アトラクション・おやつ・プレゼント配布）
2			2	アールブリュット展 見学

## 【6】地域との交流活動

小山小学校の最後の運動会、150周年を祝うイベントに参加をした。児童の皆さんと一緒に楽しい時間を過ごすことが出来た。

## 【7】ボランティア

### (1) 理美容

大野理容組合青年部4名、大野美容組合12名が来所され、理美容を実施して頂いた。

### (2) 編み物・お茶教室

編み物（O氏）茶道（I氏）の講師が定期的に来所され、充実した時間を過ごすことが出来た。

## 【8】広報紙の発行・ホームページ

年2回発行の広報紙「ゆきやなぎ」や法人のホームページでは、施設内外の行事や活動の様子、法人の事業内容等について掲載した。今後も、多くの方々へ施設や法人について知ってもらえるよう、定期的な情報発信を行っていく。

## 【9】教育実習

奥越明成高等学校生活福祉課福祉コース教育実習（介護実習）、福井県立大学看護福祉学部社会福祉学科（ソーシャルワーク実習）を以下のように実施した。ソーシャルワーク実習はR6年度より新カリキュラムとなり、地域を基盤としたソーシャルワーク実習が求められている。実習中実際に体験できない部分については座学での学びに切り替える等、可能な限り新カリキュラムの学習項目を網羅できるよう対応している。

何れの実習も実習前は県外への外出等控えてもらい、実習前後1週間を含め実習中毎日検温等の健康チェック表を記録してもらうなど、十分感染症対策を講じた上で実施した。より良い実習のためには実習担当者だけではなく、職場全体の協力を得て取り組むことが不可欠であり、職員の資質向上のためにも引き続き積極的な実習生の受け入れを行っていききたい。

### 救護施設 大野荘

実習名	実習期間	人数
福井県立奥越明成高等学校生活福祉科福祉コース介護実習	I期：7月8～9、15～17日 II期：8月19～22、26～27日 (計11日間)	4
福井県立大学看護福祉学部社会福祉学科ソーシャルワーク(社会福祉士)実習	9月16日～10月28日 (帰校日、土日祭日を除く計24日間)	1

### むつみ園

実習名	実習期間	人数
令和7年度奥越明成高校第2学年施設介護実習	I期：7月8～9、15～17日 II期：8月19～22、26～27日 (計11日間)	4

## IX 苦情解決報告

### 1. 苦情解決

#### 【1】 救護施設 大野荘

苦情申し立てはなかった。

#### 【2】 障害者支援施設 むつみ園

苦情申し立てはなかった。

#### 【3】 障害福祉サービス事業所 よもやま

苦情申し立てはなかった。

#### 【4】 共同生活援助事業所（グループホーム）

苦情申し立てはなかった。

#### 【5】 相談支援事業所

苦情申し立てはなかった。

### 2. ひやりはっと・事故報告

#### 【1】 大野荘

ひやりはっと報告件数	前期	61件	後期	91件
事故報告件数	前期	97件	後期	137件

内容については、やはり転倒・転落が多く、事故・ひやりはっとの半数を占めている。

これは、これまでの介護を必要とする利用者の介護度の増加、進まない他法施設・病院への移行に加え、新たに介護を必要とする方、とりわけ認知症により心身の介護が必要になった利用者が急激に増えていることも関係していると思われる。今回の分析の結果わかっている転倒リスクの高い時間帯等に、見守り等必要とされる適切な人員の配置が難しい等、職員の人手不足が利用者の介護度に比して、その対応が追い付いていない現状もあると感じている。

理学療法士による筋力維持を目的とした機能訓練や超低床ベッドの利用、適切なクッションパットの利用やベッド柵の利用（身体拘束についての手順を遵守）等々、転倒しない、転落時に怪我をさせないことを目標にこれまでも対応を行っており、一定の効果がある利用者もいるが、やはり転倒・転落事故の改善には至らず、心身機能の維持を目的としたリハビリテーションの更なる充実や、適切な介護機器の導入を進めるなど、今後一層の対策・対応に迫られている。

## 【2】むつみ園

ひやりはっと報告件数 168件（むつみ園165件・よもやま0件・GH3件）

事故報告件数 133件（むつみ園122件・よもやま7件・GH4件）

ひやりはっと・事故報告の特徴として、例年と同じように転倒の発生が最も多く、事故件数が77件となり、全体の47%を占めた。また、昨年度の転倒件数43件と比べると、2倍近く増加している。転倒の原因は歩行の機能低下が主として考えられるが、機能低下は高齢化、長期入院、薬の影響と様々な要因で生じる。最近の特徴として、感染症や肺炎での入院後にADLが低下し、もともと有する障害特性の影響でリハビリテーションが進まない事例が多い。クッションパンツ等の保護具の普及、転倒危険個所での見守り、そして運動機会の提供を図る事で転倒対策に努める。

よもやまの事故の内訳として、転倒が5件、利用者間のトラブルが2件あった。事故報告をもとに内容を検証し、危険な場面および個所の見直し、利用者一人ひとりにあった関わり方の検討を実施している。今後も継続して、利用されている方の様子を見守り、事故の発生予防に努めていく。

GHの事故の内訳として、転倒・転落が2件、与薬・誤薬が1件、その他交通事故が1件あった。GHにおいても利用者の高齢化が進んでおり、もともとの特性に加えて、心身の機能等の衰えがより現れ始めている印象を受ける。利用者を中心にし、安心安全な生活の在り方をご家族や多機関が連携して話し合う事が重要である。

## 【3】第三者委員の所見

### （1）伊藤 博司 委員

今回報告書の施設内での事例は、重大事故の予兆になることが多いと考えられますし、それらについて申し立てが一件もなかったことについては、職員の方が一生懸命努力されていることを家族の方にも伝わっていること、理解されている結果だと思えます。しかしながら、このような事例は、どのような施設でも日常的に起きている事象だと思われませんが「大きな事故にならなくてよかった」で終わらせず減らす努力が重要だと思われれます。

また、令和7年度は、件数も倍近くに増えていること、また、8時から18時の件数が特に多いこと、特定の利用者の方が何回も同じような経験をされています。

利用者の方が年々、高齢化していることを考えればやむを得ないことかもしれませんが、利用者一人ひとりの健康状態や体力を把握し、日々のコンディションを丁寧に確認して業務に携わることに気を付けることが必要なのではないでしょうか。

特に、昼間の時間帯の事例については、ちょっと目を配っていれば、防げた事例があったのではと思われれます。

このような危険一步手前の事態が発生した時には、幸い大きな事故には至らなかったものの、職場での危機管理の観点でみると、重大事故の予兆となる重要な情報ともいえるのではないのでしょうか。

また、人手不足や習慣が慢性化しており、スタッフの負担が大きくなる傾向があります。

そのため、疲労によるスタッフの集中力や注意力の低下が、事故につながるケースが見受けられます。転倒事故や車椅子の車体に体などが引っかかってしまうといったケースでは構造上の問題や設備の不備がある場合など事情があるとは思いますが、すみやかに改善する必要があります。また、すぐに改善できない時にはどこが危ないのか職員間で事前にリスクを把握して、事前に防止することが重要であると考えます。

## (2) 廣瀬 妙子 委員

昨年度の報告をまとめますと、事故総数は前期97件・後期134件、ヒヤリハットは前期61件・後期91件と増加傾向にあり要注意です。

発生場所は居室（59件）やホール（25件）といった生活に身近な場所が多く、時間帯としては16時から18時、次いで8時から12時に集中していることも明らかです。

背景には、利用者の加齢に伴う筋力低下や個々の障害特性による転倒・転落のほか、入浴介助や買い物支援などで職員の手が薄くなるタイミングが重なることが要因として考えられます。

また、環境の変化への戸惑いや、日常の中で刺激を求める気持ちといった「心の動き」が行動に影響している側面も否定できません。今後は、安全管理の徹底はもちろんのこと、利用者の感情や心理的なニーズにも目を向けた多角的なケアの充実を期待しています。

## (3) 羽生三千代 委員

大野荘、むつみ園、よもやまのどの施設においても入所者の方々の高齢化が進むにつれてお一人お一人への健康安全面の配慮の度合は増すばかりで職員の皆様のご苦勞をお察しします。

事故及びひやりはっとの報告書を読ませていただきましたが大まかにまとめると以下のように捉えられました。

### 1. 事故内容

- ① 起床時とか椅子から立ち上がり移動する時の転落及び転倒
- ② 食事での誤嚥とか食物詰まり
- ③ 服薬の飲み忘れ

### 2. 発生場所

居室、トイレ、廊下等

### 3. 発生時間

8：00～18：00までの活動時間が多い

また、事故が発見されるのも職員が目より行き届く時間帯であるということもわかりました。

高齢者の特徴である体幹、足腰、記憶力の衰えはどうしても避けることができない事象なので、入居者のどの報告書を読ませていただいてもそれぞれの方の人権や個性を尊重して大事に至らないよう事後処理に尽力されている職員さんおよび関係者の方々に敬意を表します。大野市民としても心よりお礼申し上げます。

近年、福祉事業所及び福祉関係団体への就労者が減ってきていることは大きな社会的課題なのでこの点についても課題解決の一助となるよう微力ながら声を上げていきたいと思っています。

#### 大野荘の事例について

- ① 入居者同士の言い争いとか暴力・・・ピッチャーで頭を殴る。
- ② 他の方のものをさりげなく奪ってしまう・・・食事の一品
- ③ 対応してくださる職員さんへの暴言

これらは大野荘の入居者の特性から発生する事例なのでしょうか  
入居者お一人お一人の言い分もあろうかとは思いますがやはり自己中心的な考えの方が多と思うので職員さんたちの連携と結束力で乗り切り日々の安全安心に心がけていただけを望みます。

#### むつみ園・よもやまの事例について

- ① 病歴から起こる事例・・・てんかん、統合失調症
- ② 身体及び精神状態、特性等による事例・・・5件

これらはむつみ園・よもやまの入居者の特性から発生する事例なのでしょうか  
また、職員さんたちが目の届かない時間帯の事例について把握しにくいと思いますが入居者お一人お一人の特性や能力を理解して適切に対応していただけているので職員さんたちの連携と結束力で乗り切り今後も継続して日々の安全安心に心がけていただけることを望みます。

### 3. 意見箱

意見箱を大野荘、むつみ園、よもやまに設置しています。投書の内容は、食事メニューのリクエスト、旅行先のリクエスト、談話室の利用時間についての希望があり、毎月、権利擁護委員会にて投書を確認し、対応を検討、回答書を掲示板等に貼り、利用者に閲覧してもらっています。